

Jazz Today®

Monthly Free Magazine

2007.02

No.34

Take
Free

from TOKYO, japan

TOSHIHIKO INOUE fuse
Don Friedman

TAKEHIRO HONDA

DAVID MURRAY

MINAKO YOSHIDA

MAKOTO NAKAMURA



<http://www.jazztoday.jp/>

TOSHIHIKO INOUE fuse



名は体を表す

text by 松本伊織



私の父は、このバンドの名付け親であった。浜松で定期的にジャズ・コンサートを主催していた父は、20年親交を温めてきた井上淑彦の復帰コンサートを『fuse』と題した。そのときのバンドがそのままfuseとなったことは、あちこちで書かれている通りだ。

2000年夏、天竜川が横切る浜松北部の町、鹿島の河川敷で、毎年恒例の花火大会が行なわれていた。私たち家族3人と井上氏は、その河川敷に横たわって打ち上げ花火を見ていた。片田舎の山間の

花火もまた趣がある、ということを私たちは初めて知った。すぐ近くに迫る山に、花火の破裂音がこだまする。そんなのどかな雰囲気の中、花火を見上げていた我々の胸中は複雑だった。末期癌に侵されていた父は、来年ここに居ることはないだろう。ただ、花火を見ていた瞬間は、無心になれたのは間違いない。

それから1カ月が過ぎ、我々一家は横浜ドルフィーでのfuseのライヴに足を運んだ。そこで披露されたのが、『Fireworks』という曲である。井上氏がどんな気持ちでこの曲を書いてくれたのか、本当によく分かった。彼は「花火を見たときの思い出というか、心境を曲にしたものですね」とよくMCで言っているし、この曲を収録した『Grasshopper』のライナーでもそのことについて触れている。あくまで私の解釈だが、「その一日の出来事」ではなく、父と彼との20年にわたる親交があった上

でのその日のことを描いているのだと思う。父が他界してから6年が過ぎたが、今でも母はこの曲を聞くと涙ぐむ。

…と、ここまでが私たち一家と『Fireworks』との関係だが、「そんな曲だから心して聴いてほしい」というつもりは全くないし、むしろ少なくとも私は、聴き手は自由に受け止めるべきだと思っている。

引き合いに出したのは、待望のfuseのライブ盤についてこの曲を例にして話を進めたいからだ。

2005年秋、Motion Blue YOKOHAMAで行なわれた本作『LIVE』の収録には、私も母も足を運ぶことが適わなかった。そしてその制作進展が気になっていた2006年夏、井上氏に聞いたところ「その前に録ったものも良くて、それも入れたいから2枚組にしたい」と言う。そして、完成した本作は、たっぷり2時間強。まるまる2ステージ分が楽しめると思うとそれだけでワクワクした。

もちろん、内容は期待以上だった。まずDISC1は山手ゲーテ座でのテイク。『BIRTH OF LIFE』からいつの間にか『I KIN YE』へ移り変わる30分のトラックで幕を開ける。まるで組曲のように次々と情景が変わる。そして静寂の極みを音で表わしたかのような『Watasuge』。続いて坂井紅介の荒々しいベース・ソロで始まる『North Rider』。ファンク然としたエンディングなどは、既に別の曲とも言えるほどの展開を見せる。続いて『Witch-Tai-To』。これまで聴いたライヴ・テイクよりも、ポップ・ソング然としたアプローチで楽しく聴ける。

ここまででも相当満足。思わず顔がほころんてしまうほどだが、まだ半分だと思うとなんとぜいたくなことか。Motion Blueでの収録のDISC2は『Grasshopper』でスタート。中盤の井上×ツノ犬の掛け合いもさることながら、後半のルパートからテンポ・アップの流れのスリーリングなどは、いつ聴いても神秘的なまでの深さを感じる。

そしていつ聴いても神秘的なまでの深さを感じる『Yoshi-ga-daira』に続き『Fireworks』。正直、毎回この曲がどう演奏されるのか緊張するが、今作ではゆったりとしていて、どこなく軽快・愉快でファンキー。これを聴いて、私は心底安心したのだ。

私にとって、一生忘がたいあの日のこと。しかし、それは同じ場所・時間を共有していたほかの多くの観客にとって、全く違う形で記憶

に残っているはずだ。本作では、のんびりした田舎の花火大会の情景だけが私には浮かんでくる。特別な日と日常は、常に隣り合わせだし、私の個人的な気持ちと、音楽とはできるだけ切り離しておきたい。そうでないと、音楽が音楽として聴こえなくなる。思い出は思い出であるべきだし、また前に進む力になるべきなのだ。

そして最後は『Flood』でフリー・キーに幕を引く。

これだけ長い作品なのに、全く聴き疲れせずにただひたすら満足感が残るのは、彼らの演奏が真に自由だからだと思う。自由な音楽は、聴き手までも自由にしてくれる。だから興奮もできるし、リラックスもできるのだ。

父は“融合”という意味で“fuse”という言葉を思いついたが、実は“導火線・起爆剤”という意味もあるらしい。偶然とは言え、多義的なこのバンドの名前は、その音楽性をシンプルに示しているように思う。そして、このアルバムのリリース・ツアーでは、また異なる顔も見せてくれるはず。そう考えると、本作が3倍くらい楽しめるように思う。

Live / 井上淑彦 fuse



ダイナミクスを最大限に生かした演奏がつく
り出すフェューズの、ジャズの、グラマラスく
サイレントな美貌を捉えた初のライブ盤。

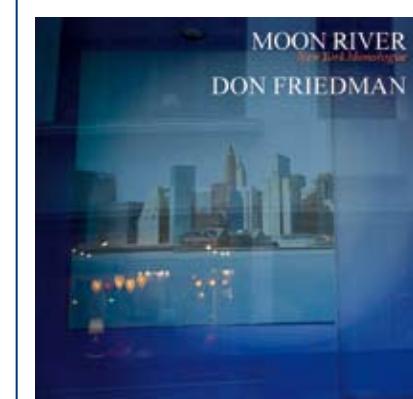
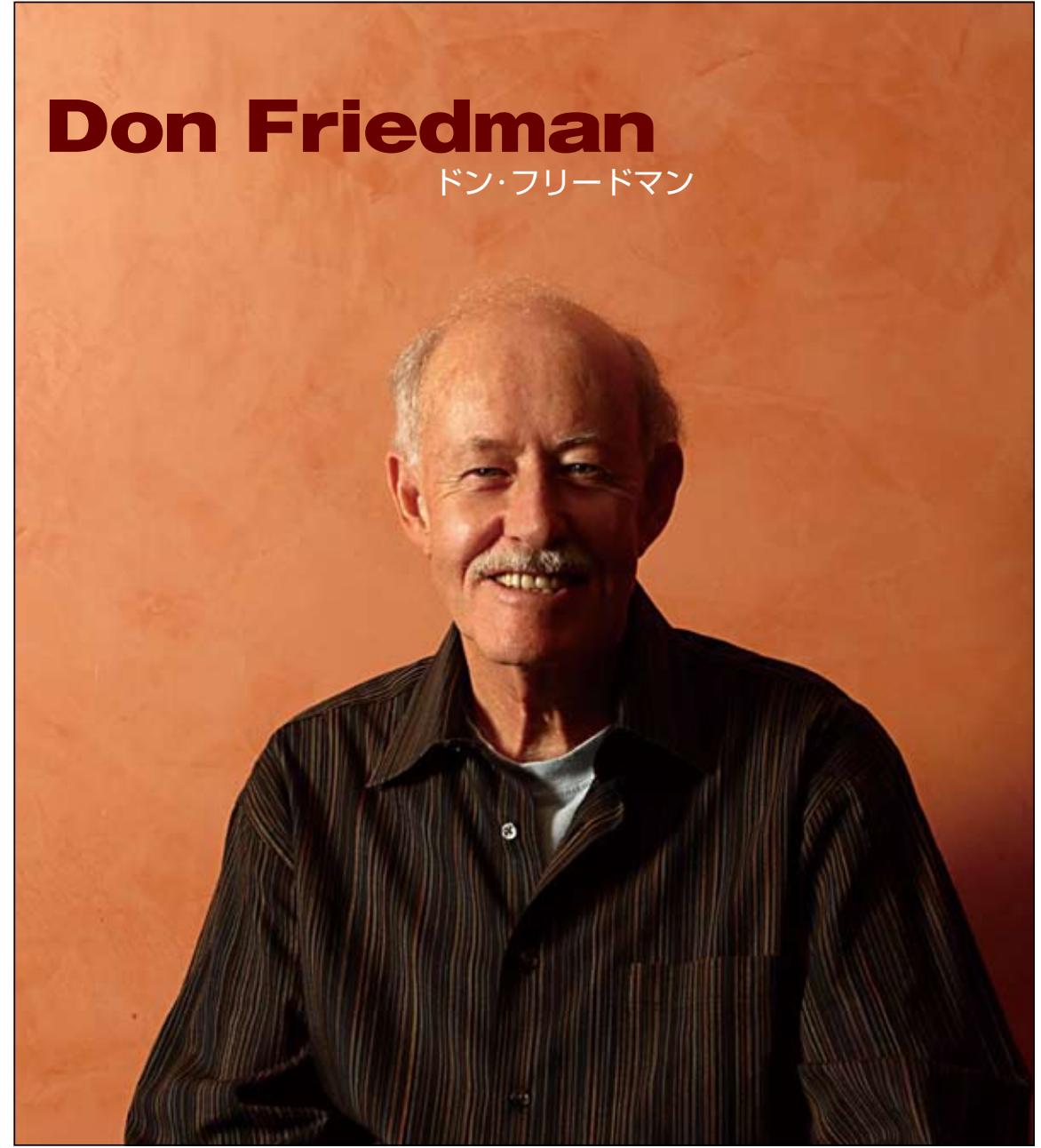
Disc 1	01. Birth of Life ~ I Kin Ye 02. Watasuge 03. North Rider 04. Witch-Tai-To	■パーソNEL 井上淑彦 (ss, ts) 田中信正 (pf) 坂井紅介 (b) ツノ犬 (ds)
Disc 2	01. Grasshopper 02. Yoshi-ga-daira 03. Fire Works 04. Flood	EWCD-0019 ¥3,000 (税込) 2007/1/24 Release





耳の摩天楼観光を堪能できる リリカルな一枚。

text by JazzToday 編集部



ムーン・リヴァー / ドン・フリードマン

モノローグ
都会派ピアノの詩人が独白で綴る摩天楼の肖像。

- 01. ムーン・リヴァー
 - 02. オータム・カラーズ ★
 - 03. 捧ぐるは愛のみ
 - 04. 枯葉
 - 05. コルコバード
 - 06. トゥナイト
 - 07. ホワツ・ニュー
 - 08. ハウ・アバウト・ユー
 - 09. ファイ・スポット・アフター・ダーク
 - 10. ワルツ・フォー・マリリン ★
 - 11. ニューヨークの秋
 - 12. モンクス・ムード
 - 13. エヴリタイム・ワイ・セイ・グッドバイ
- ★ドン・フリードマン 曲名下ろし曲
■パーソナル
ドン・フリードマン (piano)
2006年9月8日、東京録音
- Eighty-Eight's
VRCL-18837 (Hybrid / CD & Super Audio CD)
¥2,835 (税込)
2007/1/24 RELEASE

発売元: 株式会社ヴィレッジ ミュージック 販売元: 株式会社ソニー・ミュージック ディストリビューション

キーリングの「Drifter」という恋愛歌の存在を知ったのは昨年の晩秋の宵だった。都市生活者の漂白と定住の乖離を見事に描いた同歌の、「たとえ鬱が夜更けに目覚めて、獸(けだもの)のようにならかろうとも」というルフランに文字どおり打ち震え、街を歩きながら何度も何度もくり返しては聴いた。が、堀込高樹が紡いだ深い詞の全体像を咀嚼し、全行の意味を把握したのは師走の街角、美術館へ向かう途上での「啓示」であった。この歌について綴り出すと切りがないので止めるが、詞の最後に「ムーン・リヴァーを渡るようなステップで、踏み越えてゆこう／あなたと」という描写があり、決定打的な求愛の一行為が続くのが、その締めの言の葉はこれから聴き

く人のための敢えて伏せておこう。とにかく06年の師走は件の「Drifter」ばかり、じぶんでも呆れるくらいプレイしていたわけだが、さすがに新春の三が日は聴くのを控えた。そのシリアスでドラマチックな詞の全貌が完全に血肉化し、もはや虚構の世界とじぶんの心象の境界さえ曖昧になつて結構、あぶない心音を自覚したからだ。代わりにドン・フリードマンの本作『ムーン・リヴァー』ばかりをくり返し聴いて松の内を過ごした。出来すぎた構図と映るかもしれないが、本当の話だ。年末最後の宅配便で届いたのが、この素敵なソロ・ピアノ作品集だったのだから…。

NY生活48年の都会派ピアニストが生んだ音楽的結晶の本作は、「摩天楼の素描」で埋められている。その構成の背景に「あれから5年」という鎮魂の情を読むこともあながち間違いではあるまい。冒頭の「ムーン・リヴァー」の旋律が流れてきた瞬間、あの「千の風になつて」の朗読声が脳裡を掠めたりもする。地下鉄サリン事件から11年めの東京に生きる昨今のじぶんの焦燥感さえも、

枯淡の指先が奏でる美音に心地よく溶かされてゆくようだ。

川端康成の「雪国」が発表された1935年の五月、ドン・フリードマンはカリフォルニア州サンフランシスコで生まれている。が、5歳で

弾き始めたピアノ少年がその後、ウエストコースト・ジャズよりは「クーリルの誕生」以降の東海岸志向に目覚め、そのスタイルの発展・継承に半生を捧げた事実はよく知られている。彼が西海岸に背を向けて、憧れの地NYに活動拠点を移したのは

エルヴィス・プレスリーが徴兵された1958年のこと。本人は「自分

の音楽を追及するのに最適な場所を

求めた結果だよ」と当時を述懐しているが、以来48年間暮らすNY、摩天楼の街へ寄せる想いは人一倍深い

のは本作が証左している。

もう一度、「ムーン・リヴァー」へ戻ろう。同曲は映画『ディファニー

で朝食を』の主題歌、オードリー・

ヘプバーンの歌唱でアカデミー主題

歌賞に輝いたのは有名な話。注目すべきはドン書下ろしの「オータム・

カラーズ」を挟んで、3曲目の「捧

ぐるは愛のみ」へとバトンタッチさ

れる流れで、実はミュージカル『ブ

ラックバード』(1928年上演)

のために書き下ろされた同曲の誕生

秘話にも深く、5番街の老舗宝石・

貴金属店「ティファニー」が関係し

ているという。作曲者の作曲者のジ

ミー・マクヒューがある日、同店の前を通った際にショーウィンドウ

を熱心に覗き込む若いカップルのこ

んな会話が耳に飛び込んできたとい

う。「こんな宝石を贈りたい気持ち

は山々だけど、今の僕がきみにあげ

られるのはこの愛だけなんだ…」

いる。さらに「ホワツ・ニュー」

を挟んで、晴れの舞台を夢見て競う

芸人たちの青春を描いた映画「ブ

ロードウェイ」(1941)から生まれ

れたジュディ・ガーランドの大ヒッ

ト曲「ハウ・アバウト・ユー」へと続

き、この摩天楼の素描集は音楽的觀

光のコマを心地よく進めてゆく。

イースト・ヴィレッジの代表的ジャ

ズ・クラブで夜な夜なくり広げられ

た熱演の記憶を髪飾りさせるよ

う。コマを心地よく進めてゆく。

アイ・ゴルソンの名曲「ラ・ア・イ・

ス・スポット・アフター・ダーク」、数々

の名演を残す「パリの四月」と対

幕的な逸話だが舞台がNYゆえに

「らしい実話」だし、本作の導入部

としても構成が洒落ている。

また、前掲の「オータム・カラーズ」を始め、「枯葉」や「ニューヨーク」

「クの秋」が選曲されている通り、ド

ンが最も愛する季節と街の美観は歴然だ。で、ゲツツ／ジルベルトの名

を渡る余韻で頭からもう一回！



本田竹広の一周年忌に思う

文・構成 長門竜也

1年前、急性心不全でこの世を去ったピアニストの本田竹広。

一周年に合わせ8社のレコード会社と出版社が合同し、追悼企画を実施する。

キャンペーン名は「目を醒せ、HONDA！」。

2006年1月12日夕刻。破壊と叙情、執念と純真を同居させたピアニストの本田竹広が、宿志たる浄土の浜へと旅立った。ジャズ・シーンにそびえる規制の枠を、野性的本能に従い無骨に飛び越えてみせたあの蛮カラが…。ビート感に溢れ、黒々としたソウルを満面にし、いかにもロマンティストらしい小節を入れて聴き手の多くを陶酔させた。狂気を垣間みせた激しいフォービート、南海の微風を思わず爽やかなフュージョ

ン、自ら一体化してみせたアフリカ音楽、滴るような叙情に没頭して臨んだ日本唱歌、精力的にライヴ・ハウスに出ていた。病院で『珠也が一緒にやりたいと言つてくれたのが復帰への励みになった』と言つていたようだけど、直接アリガトウなんて言つたことはないし、それを言つちゃあ面白くないよね。ただ、3回目の入院ではもう復帰も無理かと思った。病院の先生からも『もうダメよ、この人』なんて言つたんだからね』

同時に腎臓を悪化させ、人工透析も受け

せ、最期の刻まで相棒たるピアノから離れることをしなかった。そんな本田竹広について息子の本田珠也に聞いてみた。

*

90年代、竹広は3度も脳障害による闘病生活をくり返した。

「よくやつたと思うよ。あの状態なのに、精力的にライヴ・ハウスに出ていた。病院で『珠也が一緒にやりたいと言つてくれたのが復帰への励みになった』と言つていたようだけど、直接アリガトウなんて言つたことはないし、それを言つちゃあ面白くないよね。ただ、3回目の入院ではもう復帰も無理かと思った。病院の先生からも『もうダメよ、この人』なんて言つたんだからね』

同時に腎臓を悪化させ、人工透析も受け

はじめた。それからは信じられないような厳しいリハビリに臨み、まさに奇跡的復帰劇をみせた。

「最後まで正常ではなかったからダメという医者の言い方は間違つてはいなかつた。だけど、存在を示すための生き方って、そんな状態でも人間にはできるわけよ。親父にとってはピアノがすべてで、それを弾くことがあの人の生き方だった。片手がなくなろうが片足がなくなろうが、あの人は弾けることが人生なんだよ」

まだ完全ではない体で、珠也とともに『ふるさと・On My Mind』を吹き込む。これが竹広最後のスタジオ録音となった。

「あそこで親父は『今オレにしか出せない音だ』って言つていた。悟つたんだよ。演奏に迷いがなくなったんだ。まだ指が動かない時、病院のリハビリ施設にあったピアノで偶然、〈赤とんぼ〉のメロディが出てきた。それもきっかけだったけど、以前からよくアントロで〈さくらさくら〉とか〈浜辺の歌〉とか童謡唱歌はよく弾いてきたし、あまり指が動かないようならそんな曲だけでアルバムを作つてもいいじゃないって、オレからそう提案したんだ。初めはちょっと躊躇してたみたいだけど、あれはスタジオの中で二人でこうしようって考えながら作つていった、最初で最後の共作と言えるかもね」

本田竹広(p)、米木康志(b)、本田珠也(ds)のオリジナル・トリオは一昨年12月17日、吉祥寺ストリングスでのライヴが最後となつた。

「覚えてるよ。珍しく〈ノー・モア・ブルース〉やつたりして。最晩年になってまた、こ



のトリオでそういう曲をやりたくなつていたんだと思う。あの時の演奏は最高だった。まあ、親父とやる時はいつだって最高だけね、アハハハ。じつは紀尾井ホールでやつたクラシック・リサイタルのあと、入院した病院の先生が『いつ逝つてもおかしくない』って言つたんだ。吐血性弁膜症っていう病名で、心臓が極度に弱つてた。親父にもそれは伝えてあつた。ただ、同じミュージシャンだから分かるけど、親父は弾いてまつどうしたかったと思う。もし、あそこですべてをやめていれば、もっと長生きしたかも知れない。だけど、ミュージシャンとして弾きたいつていう気持ちを抑えることはできないよな。やめろって言われてもやめられないよ。だから親父は前日の1月11日まで弾き倒したんだ」

1月12日の夕刻。ピアノの練習をしようと、いつもその時には指に巻く絆創膏を右手にしたところだったという。第一発見者となつた珠也は辛い思い出となつた。

「弾こうっていう意識が最後の一瞬まであつた証明だよね。でも、ぜんぜん辛くないよ。いつでも思い出してるよ、大好きだから。最後に寄り添つて、頬をなでながら『ごくろうさま』って言つたんだ。親父の死に様?

ああ、納得だね。アップレだよ。あれしかなかつたよね。今、何が足りないって親父の音がないんだよな。あの独特なね…ダメって親父がやるとダメってオレもキックで返す。するとウワ…って喜ぶんだ。そういうのを演りたいんだよ、親父が喜んでくれる

ようなあの演奏をさ」

本田の魅力／本田竹彦+渡辺真夫 5
(AMJ) ABCJ-377 ¥2,500
ザ・トリオ
(AMJ) ABCJ-343 ¥2,500
浄土
(AMJ) ABCJ-375 ¥2,500
アイラヴ・ユー
(AMJ) ABCJ-342 ¥2,500
ホワッピング・オフ
(AMJ) ABCJ-341 ¥2,500
ミスティック・ホンダ+ママ TT
(AMJ) ABCJ-376 ¥2,500
ジズ・イズ・ホンダ
(AMJ) ABCJ-272 ¥2,500
サラーム・サラーム
(UM) UCCJ-4050 ¥2,000
ダウン・ストレッヂ/エディ・ゴメス with 本田竹彦
(AMJ) ABCJ-344 ¥2,500
アナザーディバーチャー¹
(VIC) VICJ-61421 ¥2,000
リーディング・フォーヘン
(VIC) VICJ-61422 ¥2,000
イップ・グレイト・アット・サイド
(VIC) VICJ-61423 ¥2,000
ネイティブ・サン/ネイティブ・サン
(VIC) VICJ-61424 ¥2,000
サバンナ・ホット・ライズ/ネイティブ・サン
(VIC) VICJ-61425 ¥2,000
ココスト・トゥ・ココスト/ネイティブ・サン
(VIC) VICJ-61426 ~27 ¥3,500
シャイニング/ネイティブ・サン
(VIC) VICJ-61428 ¥2,000
リゾート/ネイティブ・サン
(UM) UCCJ-4043 ¥2,000
カーニヴァル/ネイティブ・サン
(UM) UCCJ-4044 ¥2,000
ガンボ/ネイティブ・サン
(UM) UCCJ-4045 ¥2,000
デイブレイク/ネイティブ・サン
(UM) UCCJ-4046 ¥2,000
ヴィアーネイティブ・サン
(UM) UCCJ-4047 ¥2,000
アグンチャ/ T.HONDA&ネイティブ・サン
(UM) UCCJ-4048 ¥2,000
スクエア・ゲーム/ザ・クアルテット
(UM) UCCJ-4049 ¥2,000
マイファニー・ヴァレンタイン/本田竹彦、井野信義、森山威男
(SMJ) SICP-1168 ¥1,890
イン・ア・センチメンタル・ムード/本田竹彦、井野信義、森山威男
(SMJ) SICP-1169 ¥1,890
パック・オン・マイフィンガーズ
(BMG) BV CJ-3755 ¥2,310
アーシアン・エア
(BMG) BV CJ-3756 ¥2,310
シーオール・カインド
(BMG) BV CJ-3757 ¥2,310
イース/本田竹彦 EASE
(BMG) BV CJ-3758 ¥2,310
ブギ・ボガーブー
(BMG) BV CJ-3759 ¥2,310
ナウ・オン・ザ・ブルース
(VM) VRCL-3022 ~23 ¥3,990
ふるさと・On My Mind
(TE) TECD-39511 ~12 ¥3,950
紀尾井ホール ピアノリサイタル (TE) TECD-25526 ¥2,500

AMJ: (株)アブソードミュージックジャパン
VIC: ピクター・エンタテインメント(株)
UM: (株)ユニバーサルミュージック
SMJ: (株)ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル
BMG: (株)BMG JAPAN
VM: (株)ヴァレッジミュージック
TE: (株)ティックエンタテインメント
AD: (株)アケタ
MK: (株)街と暮らし社



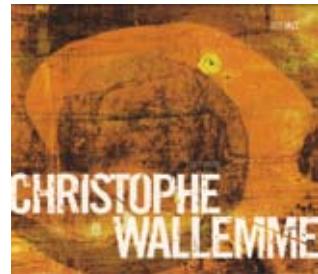
新譜・新刊

ライヴ・アット・鹿児島 USA Vol.1 オレオ
(AD) MHACD-2315 ¥2,500
ライヴ・アット・鹿児島 USA Vol.2 朝日の如く爽やかに
(AD) MHACD-2316 ¥2,500
ふるさと・On My Mind-未発表テイク集
(TE) TECD-25538 ¥2,500
ジズ・イズ 本田竹広 ウィズ・マイ・ソウル
(MK) ISBN978-4-901317-60-3 ¥2,625

旧譜

本田竹彦の魅力/本田竹彦+渡辺真夫 5
(AMJ) ABCJ-377 ¥2,500
ザ・トリオ
(AMJ) ABCJ-343 ¥2,500
浄土
(AMJ) ABCJ-375 ¥2,500
アイラヴ・ユー
(AMJ) ABCJ-342 ¥2,500
ホワッピング・オフ
(AMJ) ABCJ-341 ¥2,500
ミスティック・ホンダ+ママ TT
(AMJ) ABCJ-376 ¥2,500
ジズ・イズ・ホンダ
(AMJ) ABCJ-272 ¥2,500
サラーム・サラーム
(UM) UCCJ-4050 ¥2,000
ダウン・ストレッヂ/エディ・ゴメス with 本田竹彦
(AMJ) ABCJ-344 ¥2,500
アナザーディバーチャー¹
(VIC) VICJ-61421 ¥2,000
リーディング・フォーヘン
(VIC) VICJ-61422 ¥2,000
イップ・グレイト・アット・サイド
(VIC) VICJ-61423 ¥2,000
ネイティブ・サン/ネイティブ・サン
(VIC) VICJ-61424 ¥2,000
サバンナ・ホット・ライズ/ネイティブ・サン
(VIC) VICJ-61425 ¥2,000
ココスト・トゥ・ココスト/ネイティブ・サン
(VIC) VICJ-61426 ~27 ¥3,500
シャイニング/ネイティブ・サン
(VIC) VICJ-61428 ¥2,000
リゾート/ネイティブ・サン
(UM) UCCJ-4043 ¥2,000
カーニヴァル/ネイティブ・サン
(UM) UCCJ-4044 ¥2,000
ガンボ/ネイティブ・サン
(UM) UCCJ-4045 ¥2,000
デイブレイク/ネイティブ・サン
(UM) UCCJ-4046 ¥2,000
ヴィアーネイティブ・サン
(UM) UCCJ-4047 ¥2,000
アグンチャ/ T.HONDA&ネイティブ・サン
(UM) UCCJ-4048 ¥2,000
スクエア・ゲーム/ザ・クアルテット
(UM) UCCJ-4049 ¥2,000
マイファニー・ヴァレンタイン/本田竹彦、井野信義、森山威男
(SMJ) SICP-1168 ¥1,890
イン・ア・センチメンタル・ムード/本田竹彦、井野信義、森山威男
(SMJ) SICP-1169 ¥1,890
パック・オン・マイフィンガーズ
(BMG) BV CJ-3755 ¥2,310
アーシアン・エア
(BMG) BV CJ-3756 ¥2,310
シーオール・カインド
(BMG) BV CJ-3757 ¥2,310
イース/本田竹彦 EASE
(BMG) BV CJ-3758 ¥2,310
ブギ・ボガーブー
(BMG) BV CJ-3759 ¥2,310
ナウ・オン・ザ・ブルース
(VM) VRCL-3022 ~23 ¥3,990
ふるさと・On My Mind
(TE) TECD-39511 ~12 ¥3,950
紀尾井ホール ピアノリサイタル (TE) TECD-25526 ¥2,500

AMJ: (株)アブソードミュージックジャパン
VIC: ピクター・エンタテインメント(株)
UM: (株)ユニバーサルミュージック
SMJ: (株)ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル
BMG: (株)BMG JAPAN
VM: (株)ヴァレッジミュージック
TE: (株)ティックエンタテインメント
AD: (株)アケタ
MK: (株)街と暮らし社



NAMASTE / CHRISTOPHE WALLEMMEE

01. HOLI / 02. MON JULES / 03. NAMASTE
04. LE TEMPS DES MOUSSONS
05. TANDOORI GROOVE / 06. SWEET AUM
07. REFLECTION / 08. STONE CUTTER
09. TROUBLE TIME / 10. DIWALI
11. LA JAVANAISE

[パーソナル]
MCCHRISTOPHE WALLEMMEE / NAMASTE (Bee Jazz BEE 016)
CHRISTOPHE WALLEMMEE (b)
EMMANUEL CODJIA (el-g)
STEPHANE EDOUARD (dholak, ghatam, indian percussions)
STEPHANE GALLAND (ds)
STEPHANE GUILLAUME (ss, fl, bcl, handclapping)

guests
MATTHIEU DONARIER (ts, ss)
PRABHU EDOUARD (tabla, kanjira)
MINNO GARAY (cajon, caxixi, handclapping, vo)
THOMAS DE POURQUERY (as, ss)
NELSON VERAS (g)

するつとはいっては、ぬけてゆく。

text by 小沼純一 連載 vol.12

いきなりインド風のカウントだ。この発音、舌が口のなかで反響し唇からでてくる音、tとかkとかshといったバーカッシングな音がタブラへとすっと移行して、音楽が始まる。3拍子。バス・クラリネットとエレキギター、さらにフルートがユニゾンで重なる。交互にソロをとりながらも、あいだに他の楽器がするつとはいってはぬけてゆく。鳥や魚がいくつか大気中や水中を動いていくような。そして、その空気や水にはしっかりと振動が、ピートが息づいている。

ナマステ、わたしの神があなたの神に感謝する、をアルバム名としたクリストフ・ワレンムは、トリオ「PRYSM」で活躍していたから、知っているひとも多かろう。

1964年パリの生まれで、フランス人の父、モーリシャス人の母。レバノンとインドに長く暮らした青少年期を経た後、音楽に熱中するクリストフは、スコット・ラファロを初めて聴いたとき、ジャズにおいて「感受性」と「表現性」の意味するところが理解できたのだと思ふ。

4、5年住んだインドの記憶は遠くなりながらも自らのなかに生きている。そうライナーに記すクリストフは、インドと両親にアルバムを捧げる。

たしかにタブラやガタムの活躍する曲もある。ちょ

Drive Slow Jazzで立ちどまりながら

text by 小沼純一 連載 vol.12

つとした節回し、モードの使い方、テーマのリズムにも特徴はある。ピアノレスのサウンドに、ガタムは、素焼きの壺、の金属的で鋭く、それでいてまるさもあるひびきを加える。にもかかわらず、ここにはインド的な「くさみ」が、それが「売り」というわけではけって、ない。これは、自らの経験してきた音楽を含めた、混血的な西洋人の心身に、時間と空間の距離が意識されたうえで消化=昇華されての音楽なのだ。

クリストフのベースはただアンサンブルを支えるのみならず、他の楽器にもっと立体的に寄り添う。ドラムスとタブラ（あるいはガタム）の複層的なリズムにシンコペーテッドに重ねられもする。各楽器が織りなすテクスチャと相互の瞬間的な掛け合い、全体にある構成観と音=色への配慮にクリストフのセンスは自然に感じられるだろう。

全11曲中、最後の曲はセルジュー・ゲンズブルー「ラ・ジャヴァネーズ」。タブラとエレキギターのアタックなしのサステインにのって奏でられるベースの音色は素晴らしい。アラバムを閉じる、ライヴの最後で、メンバーが挨拶をして幕切れにびつたり。うん、コース料理がしっかりと締めくられた、そんな充実感だ。



窮地

Impression of Tristano

文&カット 平井庸一



唐突ですが今回の内容は実質、第四回の続きです。過去の連載は jazztoday のホームページで読めますのでそちらを参照してください。

一'01年にテナーの橋爪亮督が加入し、現在のメンバーがほぼ揃いました。2サックスでトリスターの曲を演奏すると、個々のプレイのレベルはともかく、全体のサウンドは思い描いていたものに近づいた気がしました。

やっと念願のトリスター・セクステットと同じメンバー構成のバンドを組むことができたことで徐々にやる気が出始め、ピットイン以外の店でも演奏し、ライブの回数を増やしていました。(平井バンドもかつては月2~3回はライブをやっていましたが、今は2ヶ月に一回程度です。メンバー

が皆若いうちはともかく、30代になると、ギャラがほとんど出ないバンドでの演奏をどう何度も頼むわけにもいかないのです)。

しばらくはこのまま継続して活動していくだろうと思っていたのですが、残念ながらそう順調にはいきませんでした。バンドを結成するきっかけにもなったピアノの都築猛が突然脱退してしまったのです。当然慰留したのですが、彼自身いろいろ考え抜いた上での決断だったのか脱退の意思は固く、引き留めることはできませんでした。都築さんのピアノはバンドの中核で、サウンドの「トリスターっぽさ」の大半を担っていたので、彼の存在なしで同じ方向性のままバンドを続けるのは不可能でした。

しかしすでに2ヶ月先までライヴをブッキングしてしまっているので、一旦ライブ活動を中断するという説にはいきませんでした。ピアノ抜きでどうやって今までと同様、あるいはそれ以上のクリティカルなサウンドを創れば良いのか悩みました

LIVE スケジュール

- 2/20(火) 新宿ピットイン昼の部
平井庸一(G)、都築猛(P)、増田ひろみ(As)、
橋爪亮督(Ts)、海道雄高、蛇子健太郎(Bb)、
竹下宗男(Dr)
- 毎週金曜日 夜7:30
六本木 FIRST STAGE (03-3405-1910)
¥2,000(ドリンク付)
ジャムセッション進行。

Drive Slow Jazzで立ちどまりながら

text by 小沼純一 連載 vol.12

つとした節回し、モードの使い方、テーマのリズムにも特徴はある。ピアノレスのサウンドに、ガタムは、素焼きの壺、の金属的で鋭く、それでいてまるさもあるひびきを加える。にもかかわらず、ここにはインド的な「くさみ」が、それが「売り」というわけではけって、ない。これは、自らの経験してきた音楽を含めた、混血的な西洋人の心身に、時間と空間の距離が意識されたうえで消化=昇華されての音楽なのだ。

クリストフのベースはただアンサンブルを支えるのみならず、他の楽器にもっと立体的に寄り添う。ドラムスとタブラ（あるいはガタム）の複層的なリズムにシンコペーテッドに重ねられもする。各楽器が織りなすテクスチャと相互の瞬間的な掛け合い、全体にある構成観と音=色への配慮にクリストフのセンスは自然に感じられるだろう。

全11曲中、最後の曲はセルジュー・ゲンズブルー「ラ・ジャヴァネーズ」。タブラとエレキギターのアタックなしのサステインにのって奏でられるベースの音色は素晴らしい。アラバムを閉じる、ライヴの最後で、メンバーが挨拶をして幕切れにびつたり。うん、コース料理がしっかりと締めくられた、そんな充実感だ。



窮地

Impression of Tristano

文&カット 平井庸一

が、このことがただのコピーバンドを脱し、トリスターの音楽に対する自分たち独自のアプローチを考える転機になりました。

参考にしようとトリスター関連のレコードやCDを聴き漁っていると、その中にピーター・インド(B)がWAVE Records(インドの自主レーベル)に録音したアルバムがありました。インドのアルバムには2ペース編制のものが何枚かあり(ひとりでベースをオーバーダブしているものもある)、2本のベースが同時にウォーキングを刻んだり、一人がベースソロを取るとき、もう一人がバックでベースラインを弾いたりしています。そのサウンドが印象に残り、ここになにかヒントがあるんじゃないだろうかと思いました。

(以下次号)

LIVE スケジュール

- 2/20(火) 新宿ピットイン昼の部
平井庸一(G)、都築猛(P)、増田ひろみ(As)、
橋爪亮督(Ts)、海道雄高、蛇子健太郎(Bb)、
竹下宗男(Dr)
- 毎週金曜日 夜7:30
六本木 FIRST STAGE (03-3405-1910)
¥2,000(ドリンク付)
ジャムセッション進行。

Vol.3

そして、旅は続していく

text by 中村真

ewe



る。下り終え、すっかり日も暮れてしまった中、海岸でテントを張れる場所を見つけ一安心。近くの銭湯に入り、すっかり冷えきった体を温める。この日は自炊はあきらめ、テント場の近くの居酒屋に突撃。自分を甘やかす。たまにはいいよね。一人で飲んでいると隣の年中夫婦が話しかけてくる。おじさんも、日本中を自転車で旅をした自分の青春の思い出を語ってくれた。

次の日、越前海岸を走っていたら、通り過ぎた車がハザードランプを点灯させて止まっている。なんと、そのおじさんたち夫婦だった。偶然の再会!! 苦難を乗り越えた後、見えてくる風景は、きっといつも見る風景とは違う。それに、苦難の後の安寧は、よりそのありがたみを教えてくれる。安らかな寝床を与えてくれる大地に対して、一日暖かく過ごさせてくれた太陽に対して、食べ物に対してや、お水を汲ませてくれる人々に対して、体を清めてくれ、温もりを与えてくれるお風呂に対して、時に泊まる安宿にも。こんな自分の旅と共に感してくれ、演奏の場を与えてくれた人たちに対して。そしてそれを聞きにきてくれるお客さんに対して。

地べたで寝てご飯を食べ、当たり前のものが当たり前でない生活を続けると、普段当たり前だと思っていたことに対するありがたみを感じることができるチャリ旅は、僕に感謝の気持も教えてくれた。僕の旅はまだまだ続く。

SOLO PIANO vol.3 紡がれた印象

中村真



オリジナル曲を中心とした「ル・イン・グリーン」などのスタンダードを斬新な解釈で演奏したピアノソロ第三弾!

EWCD-0112 ¥2,500 (tax in)
2006/7/5 Release

- 01. Spring can really hang you up the most
- 02. That sunday That summer
- 03. The comparison of a D major and the other
- 04. 風子 / 05. The first water / 06. Blue in green
- 07. くまさんのフルソ / 08. Improvisation - Erotic Blue
- 09. 夏の思い出
- 10. Improvisation - Bluespotted Mudhopper
- 11. Improvisation - Erotic Blue

[パーソナル] 中村真 (P)



Jazz of LIFE

シカゴと夜と音楽と

連載 vol.10

100歳の伝説

text by 尾形奈美

<http://www.chicagojazzphotos.com>

© NAMI OGATA

ジャズが生まれて今年で何年目かという質問には様々な解釈があるだろうが、Louis Armstrong がニューオリンズからシカゴにやってきた1922年から数えれば、今年はちょうど85年目となる。ジャズが初めてレコードになったのが1917年だから、そこを基準としても生誕90年。なんだ、まだ100年も経っていないのね、と言う人もいるが、そう考えてみると、ジャズの歴史は

意外に短い。ディキシーや南北戦争後の黒人プラスバンドはどうなんだ、と言われたら困ってしまうが、あくまで一般的に言われるジャズを考えた場合。

そのジャズの歴史を作ってきた伝説的なジャズ人の中には、ここ数年間に訃報を聞いた人も多い。が、いまだ現役で活躍している“伝説”がいるのもまた事実。Von のように毎週2時間休憩なしでサックス演奏を続けている85歳もいれば、90歳前に世界中を飛び回って演奏活動するHank Jones のようなピアニストもいる。そんな彼らの昔話には、とても興味深い歴史が詰まっていたりする。

20年代にニューオリンズからシカゴにやってきたピアニストの一人、John Young とステージの休憩時間に雑談していたときのこと。ふとしたきっかけで、子どもの頃の話になつた。「シカゴに来る電車代を稼ぐのに、お母さんは浴槽にビールを作つて売つてたんだ。僕らはそれをバスタブビールって呼んだんだよ」とジョンは子供みたいにケラケラ笑つた。生きていくための移住、密売。平和な日本に生まれた私には、とうてい信じられない話だったが、それが彼らの現実。興味津々な私に、ジョンは話を続ける。「僕はラッキーだよ。身近にピアノがあつたからね」私は打診半分に、何気なく聞いてみた。「ピアノ教えるの?」すると、90歳近くのジョンは嬉しそうに白い歯をニヤリとむき出し、いたずらな笑顔でこう答えた。「Not yet (まだだよ)! 100歳になつたらね!」

「今月の一枚」

MOONKS EXPERIENCE NEWS

Vol.8



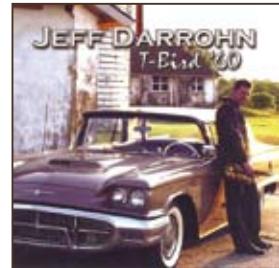
Nico Morelli / UN[FOLK]ETTABLE Pizzica&Jazz Project (cristal)

ピアノトリオの好みはMOONKS のなかでも分かれている。美旋律にこだわるもの、構成美と展開に満ちるもの、リズムを追いかけるものなど。私は元々スウィングで単純なノリノリのピアノが好きだったので、上原ひろみに出会って以来、「異旋律」とも呼ぶべき音階とリズムの巧妙な組み合わせにはまっている。ジェレミー・テルノイはパリで活躍する異旋律のピアニスト。エレキベースとドラムのリズムは低く厚い雲のなか不気味に響く雷鳴のようにある種のトランスク状態を生み、テルノイは麻痺した思考にフラッシュバックのような異旋律を絡ませる。テルノイの企てた罠に思考をまかせ、その刺激によって生まれた脳内麻痺に酔いしれる。

(白澤茂穂)



Jeremie Ternoy / Jeremie Ternoy Trio (自主制作)



Jeff Darrohn / T-Bird '60 (Jazz Media)

原田真人→宇崎竜童→矢野沙織→早坂沙知→原田芳雄→坂田明→阿川佐和子→島田歌穂→森山良子→かまやつひろし→藤田恵美→岡本真夜→

JAZZへの扉 Vol.13

ゲスト
国府弘子

私って「ジャズピアニスト」というより 「ジャズファンのピアニスト」かな。 国府弘子(談)

コメント取材場所に選ばれたのは梅ヶ丘の商店街にあるギャラリー喫茶『ゾーエ』。ゾーエとはギリシャ語で「命」の意味。近隣のジャズ・ファンの溜まり場的このお店に国府弘子さんは自転車で登場した。一曲選んだのですけれど、ジャズじゃなくていいんですね? スティーヴ・ワンダーのアルバム『キー・オブ・ライフ』の〈アズ(永遠の誓い)〉、この曲のハーピーのローズ・ピアノのソロが大好きなんです。ほんとはビーターソンの『ブリーズ・リクエスト』とかエヴァンスの『ワルツ・フォー・デビー』がジャズとの出会いになりますが、ちょっと飽きちゃつたしね。と言しながらも、店内にエヴァンスやビーターソンが流れると、やっぱいいわ~。

小さい頃からクラシック・ピアノを習い、音大も卒業したのですが、実は子供の頃から私はボピュラー指向、ポップスおたくでした。今でもビートルズなどはマニアの方とお話ししても負けないつもりです。国立音大時代は、他校の音楽サークルに加わってスティーヴ・ワンダーやアース・ウインド&ファイアといったクロスオーバー系を演奏していました。

ある時、学校の門の前で、ヤマハの「音大生でも弾けるボピュラー音楽講座」というチラシを手にしました。もし「ジャズ講座」と書いてあつたら、怖じ気づいて行かなかつたかも(笑)、でもボピュラー・ピアノと書いてあつたので、生意氣にも道場破りの気分で行つたんです。それまでにも結婚式場とかレストランで演奏し、ボピュラー・ミュージックのレパートリーが多かつたこともあり、それなりに自信はありましたし、音大生活だけでは物足らず、ちょっと外で演奏して自分の腕前を試してみたくなりましたということもあります。

ところが、迎えてくれた講師はバド・パウエル研究家の藤井英一先生。藤井先生はビバップのオーディリティですが、「音大生にも弾けるビバップ講座」では人が集まらないので、ヤマハがボピュラー・ピアノ講座と命名したんじゃないかな(笑)。ともかくそこで、先生に聴かせてもらったのがバド・パウエルの『アメイジング・バド・パウエル』、オスター・ピーターソンの『ブリーズ・リクエスト』、ビル・エヴァンスの『ワルツ・フォー・デビー』などなど。気がついたらジャズ、特にビ・バップに恋してました。

それ以前に、スティーヴィーの〈アズ〉の後半のエレピ・ソロがカッコよくて自分でコピーしたりしていましたが、それがハーピー・ハンコックだという事も先生に教えられ、譜面を使わないアドリブソロというもののスリルと楽しさ(難しさ)を教えてられ、ついにジャズにはまつてしまつたんです。音

大生にとって、エヴァンスの〈ワルツ・フォー・デビー〉のテーマなんてまるでラヴェルのように聞こえますから、とてもすんなりと耳に入つてしましました。ビーターソンには、こんなにウキウキと楽しく即興演奏が出来るのか、なんて感服しました。バド・パウエルは最初あんまりピンと来ず、巧いのか下手なのかも分かりませんでした。今ではもちろんスゴイと思うけど。その後、私はニューヨークに住み、現地でやはりバップの重鎮バリー・ハリスに師事したくらでありますから、当時かなりバップ漬けだったんですね。

ただ、プロデビューして自分のアルバムを創るようになってから、実は4ピートやビバップの曲調はほとんどコーディングしていないんです。それはある意味、バップの巨匠たちへの畏敬の念というか、とにかく「コピー」したものを消化して、自分のモノにしないと意味がないという気持ち。だから自作曲は、クラシックからバップ、ブラジルものやラテン、ロックとかなり気ままに取り入れて“ジャングル”になってると思います。でも、ふとしたセッションの時に「あれ、バップ相当好きでしょ?」と仲間に指摘されると、照れくさいようなうれしさを覚える。

音楽で一番大切だと思うのは「胸に響く温かいメロディ」。それはジャズであれクラシックであれ関係なく、自分自身の創る音楽も歌心あふれる温かいものであります。そして、今その歌心を奏でる際に、20代の頃さんざん学んだビバップのフレーズがとても生きている事は確かです。自分が生粋のジャズピアニストとは全然自覚してませんが(そんな自信はナイ!)、でも生粋のジャズファンだ、とは確信してます。それくらい、ジャズは奥深い音楽だと思います。

編集協力: ピンポイント

【国府弘子略歴】

東京都渋谷区西原生まれ。国立音楽大学ピアノ科三富二葉教授に師事。在学中にジャズに目覚め卒業後単身でニューヨークに渡り、バリー・ハリスに師事。1987年ピクター JVC レーベルと契約。以後約一年に約一枚のペースでアルバムをリリース。ピアノと作曲両面で、クラシックからジャズ、ブラジル音楽やラテンまで、一つのジャンルにこだわらないマルチな取り組みで独自の国府ワールドを確立。またその気さくで陽気な人柄と暖かなステージで全国に幅広いファンを持つ。

『月刊ピアノ』『ジャズラ・イフ』『ピアノ・ライフ』などでセミナー連載執筆中。NHK FM『ジャズ・トゥナイト』(隔週土曜日23:00~)のレギュラーパーソナリティ。

国府弘子スケジュール

2007年2月3日(土)
神奈川・よすか芸術劇場 ジャズ・ピアノ6連弾
2007年2月7日(水)
滋賀・栗東芸術文化会館さきら SAKIRA Live Mission Act.14
国府弘子ピアノライブ～音のしゃべり、音のお料理～
2007年2月10日(土)
東京文化会館 音楽の匠 東京文化会館の響きに挑む5夜 Popular Week
2007年2月17日(土)
東京・サントリーホール ジャズ・ピアノ6連弾
2007年2月24日(土)
静岡・アクトシティ浜松 ジャズ・ピアノ6連弾
2007年2月25日(日) 26日(月)
新潟・岩原PIT-INN 国府弘子スペシャルトリオ
2007年3月4日(日)
茨城・ひたちなか市文化会館 ジャズ・ピアノ6連弾
2007年3月25日(日)
神奈川・葉山cafe ものひとつの風景 ライブ
国府弘子ピアノソロ in 葉山

国府弘子ホームページ
<http://kokubuhiroko.net>

HD
24 96

“原音”へのこだわり

ジャズ・クラシックの名曲 約3万曲 高音質で勢揃い

HD高品質音楽配信サイト e-onkyo music
<http://music.e-onkyo.com/>

e-onkyo music



The live line!

2月の新宿ピットイン

【夜の部】

開場 PM7:30 開演 PM8:00 ¥3,000~(1DRINK付)



2月 1日(木) 洸さ知らズ

◎新宿ピットインにて1/2 16時よりチケット(予約可)前売り開始。

2月 2日(金) What is HIP?

¥3,500

松木恒秀(G) 野力奏一(Key) 岡沢章(B) 渡嘉敷祐一(Ds)

2月 3日(土) ジョージ大塚 NIGHT

ジョージ大塚(Ds) 深沢真奈美(P) 高山夏樹(B)

2月 4日(日) 清水くるみ ZEK TRIO

清水くるみ(P) 米木康志(B) 本田珠也(Ds)

2月 5日(月)

長見順 GROUP

長見順(G/Vo) 藤澤由二(P)

上村勝正(B) 岡地暉裕(Ds)

ゲスト:

石崎忍(As) 佐藤帆(Ts)

KOO(Tp) YASSY(Tb)



2月 6日(火) BOZO

津上研太(As) 南博(P) 水谷浩章(B) 外山明(Ds)

2月 7日(水) Os Amarelos

前田優子(Vo) ヤヒロトモヒロ(Per) 竹中俊二(G)

2月 8日(木)

HIROSHI MINAMI GO THERE!

南博(P)

竹野昌邦(Sax)

水谷浩章(B)

芳垣安洋(Ds)



南博

SHINJUKU PIT INN

〒 160-0022
2-12-4 ACCORD BLDG. B1
Shinjuku shinjuku-ku Tokyo JAPAN
☎ 03-3354-2024
<http://www.pit-inn.com>

2月 9日(金) ET SESSION

藤山英一郎(Ds) 西尾健一(Tp) 西藤大信(G) 池田潔(B)

2月 10日(土) 辛島文雄 カルテット・ナイト

辛島文雄(P) 池田篤(As) 川村竜(B) 横山和明(Ds)

2月 11日(日) 一増幸弘 TRIO

一増幸弘(笛, その他) 鬼怒無月(G) 吉見征樹(Table)

2月 12日(月) モヒカーノ 開&ラテンジャズ 8重奏団

モヒカーノ 関(P) 藤田明夫(As) 鈴木雅之(Ts) 中路英明(Tb)

高橋ケタ夫(B) 平川象士(Ds) 今福健司、美座良彦(Per)

2月 13日(火) 手コ本田 GROUP

デコ本田(Vo) 竹内直(Sax) 和泉聰志(G) 吉田桂一(P)

荒巻茂生(B) 江藤良人(Ds)

2月 14日(水) SHOOMY BAND

宅朱美(P/Vo) 加藤崇之(G) 是安則克(B) 楠口晶之(Ds)

ゲスト: 松風誠一(Sax, Fl)

2月 15日(木) 渋谷 毅 オーケストラ

¥3,500

渋谷(PO) 松風鉢一(Sax, Fl) 片山広明(Ts) 津上研太(As)

松本治(Tb) 石渡明廣(G) 上村勝正(B) 古澤良治郎(Ds) ほか

2月 16日(金) 板橋文夫 オーケストラ

板橋文夫(P) 井野信義(B)

つる犬(Ds) 片山広明(Ts)

田村夏樹(Tp) 吉田隆一(Bs)

太田恵賀(Vn) 翁長巴酉(Per)



2月 17日(土) STEVE ELMER TRIO [Shingo introducing N.Y.]

前売¥4,000 当日¥4,500



スティーブ・エルマー(P)

田中秀彦(B)

奥平真吾(Ds)

◎新宿ピットインにて、1/8 よりチケット(予約可)前売り開始。

2月 18日(日) 橋爪亮督 Group 'Tour 2007' Final

橋爪亮督(Ts, Loops) 市野元彦(G) 橋本学(Ds) 織原良次(B)

2月 19日(月) phonolin 「My Heart Belongs to Daddy」 CD 発売記念

水谷浩章(B) 松本治(Tb) MIYA, 太田朱美(Fl)

竹野昌邦, 松風鉢一(Sax) 橋本歩, 平山織絵(Vc)

中牟礼貞樹(G) 外山明(Ds) 大儀見元(Per) 新居章夫(Sound)

2月 20日(火) Terje Isungset / 一増幸弘

前売¥3500 当日¥4000

テリエ・イースングセッタ(Per) 一増幸弘(笛, その他)

2月 21日(水) Nervio (ネルビオ)

新澤健一郎(P/Key) 音川英二(Ts, Ss) 西崎徹(B)

岩瀬立飛(Ds, Voice) ヤヒロトモヒロ(Per)



DAVID MURRAY SPECIAL INTERVIEW

Jazz Is The Teacher, Funk Is The Preacher

interview by JJazz.Net



Q : あなたは常にたくさんプロジェクト

を精力的に行なっていますね。

デヴィッド・マレー(以下 DM) : 僕がこ

ともあきつばかりだよ(笑)。ジャズは色々

な形で演奏されるものなんだ。ジャズは黒

人が発明したものだけじゃなく色々な音楽

や文化に対して常にオープンなんだ。ジョ

イムズ・フラット・ウルマーの曲で「jazz

is The Teacher, Funk Is The Preacher」

ていうのがあるけど、正にそのとおりなん

だ。ある曲があつたら、それをジャズって

いつフィルターを通して洗練されたものに

なる。そしてファンクやその他のボビュリー

ミュージックは子供たちが何か手にする

ための伝道師みたいなものなんだ。それに

50年代からのジャズファンはもう80歳だ

よ。ジャズは新しいファンが必要だよ。そ

のためには僕はいつも耳をギターでやっているんだ。息子は今21歳でギターをやっているんだ。彼の聴いてるものをチェックして

たりしてる。

Q : 今、進んでいるはどんなプロジェクトですか?

DM : 今、取りかかっているのはロシアの詩人のブーシキンのプロジェクト

クトなんだ。2005年に「Waltz Again」というアルバムをカルテツ

トリオ・トリニティス10人で作ったんだ

けど、これが最初のブーシキン・ブ

ロジェクトで、今回のはブーシキン。

プロジェクト2なんだ。これはもつ

と演劇的な要素が強いもので、「ブ

ーシキン」にも出ていた俳優の工

イグリ・ブルックスがブーシキン

役で歌で参加してたんだ。他にもロ

シア人の歌手や俳優、ストリーリングス、

それと僕の6人編成のグループによ

るものなんだ。

朝食の支度をしている暖かい光景のよう

な、そういう安心感のある、すごくリラ

クスでとにかく落ち着ける感じ。多く

のJazzがそういう雰囲気をもつていて思つた。自分を一番落ち着かせてくれて、居心地のいい曲を探すのはスゴイと思

うよ。ハートなJazzから聞かなきゃなん

て意気込む必要ないと思うんだ。誰もわ

ざわざ最初にセシル・ティラーから聞いて

みよつて思わないでしょ。(笑) もう少

く僕はセシルは好きだよ(笑) だけど

どうして彼の曾祖父がアメリカ人でア

シキは黒人とロシア人とのミックスなん

だよ。彼はロシアの英雄的な詩人だけ

で、彼はロシア語だけじゃなくフランス語やドイツ

語でも書いていた。しかも彼の詩には

彼自身の中のアフリカ性について書かれて

いる詩もあるんだ。ブーシキンの作品は

どういった言葉で云えられたって思つてたんだ。

プロジェクトで僕は、僕らアメリカの黒人の

偉大な仲間がヨーロッパにいるんだよ

といふ言葉を云えられたって思つてたんだ。

プロジェクトで僕は、僕らアーティスト

が増していくっていつか。(僕は今でこそ)

コード店もあまりいかないけど、昔はよく

行つたんだ。すると前は一枚しか買わなかつ

たのに、3枚くらい買って帰つてきちゃつ

たよな(笑)。きっとそうした頃にはセシ

ル・ティラーの曲で目覚めるくらいになつ

ていいだらう(笑) サン・ラやアート・

サン・ブル・オブ・シカゴ、アンソニー・

ブラックストンとか、それこそデヴィッド・

マレイとかね(笑)。とにかく、最初の「聴

き始め」、スタート地点つてもの凄く大切で

重要なコトなんだと思うよ。

NEW DISC INDEX



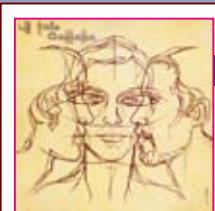
月の鳥

渋谷毅・石渡明廣

ふたりが紡いでいく演奏は微かに甘く複雑とした風を運んでくる。その自然に向こうからやってくる風こそ音楽の喜びと言ふべきだろう。

01. Talk about walking through
02. 月の鳥
03. 影響の記憶
04. Sing in exit
05. Body and soul
06. Obscure steps
07. Mr. Monster
08. 深く、ゆっくり、上へ
渋谷毅 (p) / 石渡明廣 (g)

2006/12/20
Release



トリオ・カマラ

トリオ・カマラ

60年代サラヴァ・レーベルのジャズ・ボサ名盤が遂に国内初CD化!

01. ビリンハウ (p) / 02. ナウン・テン・ソルサウン
03. ビア (04. ナッサンチ) / 05. エストラーダ・ド・ソウ
06. ヴッパ・ネギニヨ (07. 祈りのかたち
08. シエカサン / 09. ノア・ノア
10. ミュート・ア・ウォンタージ / 11. サンバ・ノーヴォ

フェルナンド・マルチス (p) / エデソン・ロボ (b)
ネウソン・セハ・ヂ・カストロ (ds)

2007/1/24
Release



ウマ・ダマ・タンパン・ケル・シ・ヂヴェルチール

マリアーナ・バーレタール

テレーザ・クリスチーナ、アナ・コスタに続く Samba-Nova 新星美形女性ボーカル! 柔らかでコケティッシュなボーカルながら、レハートリーは本格派。新たなソフト・サンバの傑作がついに国内盤リリース!

01. PRESENTIMENTO / 02. DEIXA COMIGO
03. BALA COM BALA / 04. ZUMBI / 05. RALADOR
06. VAI COM DEUS / 07. INSENATEZ
08. FITA MEUS OLHOS
09. OBSESSAO-VAI, MAS VAI MESMO-ME DEIXA EM PAZ
10. SECAO / 11. DONA BIU
12. O PISTON DO BARRAQUINHA / 13. SAMBA DA ZONA
14. SUSPENSO NO AR

2007/1/22
Release



stories

Black Gold Massive

UK ソウル・アシッドジャズを受け継ぐ、アバングで爽やかなサウンドを聞かせてくれるるのは UK 出身のユニット、ブラックゴールド・マッシブ

01. Just Make A Move (and be yourself)
02. Cast No Shadow / 03. Don't Give Up Now
04. Call Me Anytime / 05. When Did You Go
06. Set Me Free (featuring Swanburger)
07. Let It Flow (Sausalito Calling) / 08. I Do
09. Introduce MeToLove / 10. Sometimes it Snows in April
11. Don't Give Up Now (Piano Version)
12. Don't Give Up Now (urban soul mix) ≈
13. Set Me Free (D-TOUR VS CHRIS 'BLACKGOLD' 84 R>WORK)
※ 国内盤限定ボーナストラック

2007/1/19
Release



BEYOND IT ALL

ALLEN HINDS

メロディアスな旋律とブルースのドライブ感、JAZZのセンスを合わせ持つギタリストアレン・ハインズ最新作

01. Elegant Decadence / 02. Redland Road
03. Worn But Not Tattered / 04. Beyond It All
05. Kate and Dave's / 06. March 28TH
07. Now Really / 08. Bad Baby / 09. Closure
ゲスト
ランディ・クロフォード / ジミー・ハスリップ
ウイレ・ケネディ 他

2007/1/26
Release



It's only セイ小(グワ) ~ザ・ベスト・オブ・登川誠仁 1975-2004~

登川誠仁

沖縄のおじいと言えばこの人! 沖縄のジミ・ヘンドリックスとも形容される、沖縄民謡界を代表するセイ小、75歳を祝う初めてのベスト!

01. 線の沖縄 (with ソウル・フラー・ユニオン) / 02. 忠孝の歌 (忠孝 C M曲) / 03. 嘉手久 (with 嘉手丸林昌) / 04. アッチャメー (初CD化音源) / 05. ベスト・パー・キンママ (with 照屋林助) / 06. 安里屋コータ / 07. スーキカンディ (with 知名定男) / 08. ナークニー / 09. 富原ナーナクニー (宮古音) / 10. 酒ぐせ口説 / 11. 白雲節 (映画「ホルテ・ハイビスカス エンディングテーマ」) / 12. 戦後の嘆き / 13. 油断しなな (2001年3月30日沖縄市でのライブ音源) / 14. 石川かぞえ唄 (2001年3月30日沖縄市でのライブ音源) / 15. 車歌たべたいなあ (露宮の歌) / 16. じいちゃん ばあちゃん / 17. カイサレー / 18. 新デンサー節 / 19. ヒヤミカチ節 / 20. 多幸山 (with 嘉手丸林昌) / 21. なりたい節 (with ソウル・フラー・ユニオン)

2007/2/14
Release



サーム

トマス・クローセン・トリオ

デクスター・ゴードンに認められ、ジャッキー・マクリーンと初録音、マイルスとも共演/録音しているデンマーク・ジャズを継承する人気ピアニスト。暖かい知性を醸し出すオリジナルが逸品。

01. Psalm
02. Dancing In The Dark
03. Snehvides Drøm
04. So Far
05. Skygger
06. To B.R.
07. Soft
08. Don't Look Back
09. Les Parapluies De Cherbourg (I'll Wait For You)
Thomas Clausen (p) / Mads Vinding (b) / Alex Riel (ds)

2007/1/17
Release



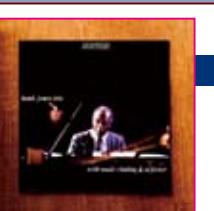
タッチダウン

マイケル・ヘイス

弾力性溢れるピアノと骨の髓まで響くベース、瞬時に反応するドラムスが織りなす歯切れの良いインターフレイ。圧倒的説得力を持った三位一体。

01. Touchdown / 02. Israel
03. Cheeky / 04. Rosebud
05. Five For Jan Johansson
06. Time For The Mohicans
07. Round Trip / 08. Blue Haze
09. Crane Dance
Michael Heise (p)
Larry Grenadier (b)
Ali Muhammad Jackson (ds)

2007/1/17
Release



ジャズパー 91

ハンク・ジョーンズ・トリオ

名手そろい踏み。生涯現役ハンク・ジョーンズ (p) が1991年にマッス・ヴィンディング (b)、アル・フォスター (ds) と繰り広げたピアノ・トリオの理想型。美しいほどの完成度の高さがここにある。

01. Pent Up House / 02. When Will I Know You?
03. Bloomdido / 04. Midnight Sun
05. Monk's Mood / 06. Quintessence
07. Bemsha Swing / 08. Up Jumped Spring
09. Bags' Groove / 10. Four

Hank Jones (p)
Mads Vinding (b)
Al Foster (ds)

2007/1/17
Release



ミュージック・オブ・トム・ハレル

クラウス・スオンサーイ

スオンサーイ (ds) が、盟友の鬼トム・ハレル (tp) に捧げたアルバム。最高潮のニールス・ラン・ドーキー (p)、アグレッシブなN.B.ペルセイ (b) と共にハレルの楽曲を敬愛こめて演奏した。オスロのレインボウ・スタジオにおける高品質サウンドも魅力。

01. Journey To The Centre / 02. Buffalo Wings
03. Sunflower / 04. Terrestris
05. Water's Edge / 06. Bell
07. Bright / 08. Serenity
09. Camera In A Bag

Klaus Suonasaari (ds)
Niels-Henning Ørsted Pedersen (b)
Nils Lan Doky (p)

2007/1/17
Release



リッチャー・カミューカ・カルテット

リッチャー・カミューカ

ウェスト・コースト・シーンを代表するテナー奏者、リッチャー・カミューカの人気アルバムであるとともに MODE を代表する一枚。カール・バーキンズ、リロイ・ヴィネガー、など生粋のウエスト・コースター達と熱演を繰り広げるワン・ホール・カルテットの名作。

01. ジャスト・フレインズ / 02. レイン・ドレイン
03. ホワッツ・ニュー / 04. アーリー・バード
05. ネヴァーアレス / 06. マイ・ワーン・アンド・オーナー・ラヴ
07. フィアード・ワン・ワズ・エロキキー

リッチャー・カミューカ (ts) / カール・バーキンズ (p)
リロイ・ヴィネガー (b) / スタン・リービー (ds)

2006/12/22
Release



ペッパー・アダムス・クインテット

ペッパー・アダムス

ジェリー・マリガンと並ぶ人気バリトン・サックス・プレイヤー、ペッパー・アダムスの記念すべき初リーダー作。若さ溢れる力強いプレイとウエスト・コースト風のライトでハード・バップ感溢れる一枚。

01. アンフォガッタブル
02. ビーズと腕輪
03. フラティ・ブルー
04. マイ・ワン・アンド・オーナー・ラヴ
05. ミュージン

ペッパー・アダムス (bs) / スチュ・ウイリアムソン (tp)
カール・バーキンズ (p) / マーティ・ベイ (p)
リロイ・ヴィネガー (b) / メル・ルイス (ds)

2006/12/22
Release



ハービー・ハーバー・セクステット

ハービー・ハーバー

モダン・ジャズ・トロンボーンのソロリストとしてウエスト・コーストで活躍した白人ブレイヤー、ハービー・ハーバーの数少ないソロ・アルバム。マーティ・ベイ、レッド・ミッチャエル、メル・ルイスなど人気ブレイヤーはじめ、無名のテナー奏者、ジェイ・コーンのプレイも光る2管アレンジ。

01. ジェイズ・チューン / 02. リトル・オーファン・アニー
03. クロエ / 04. レッツ・フォール・イン・ラヴ
05. ログ・アーラー / 06. ログ・アーラー・アンド・ファー・アウェイ
07. ザッツ・フォー・ショア

ハービー・ハーバー (tb) / ジェイ・コーン (ts)
ハーバード・ロバーツ (g) / マーティ・ベイ (p)
レッド・ミッチャエル (b) / フランキー・キャップ (ds)
メル・ルイス (ds)

2006/12/22
Release



ウォーン・マーシュ・カルテット

ウォーン・マーシュ

トリスター・ノ派の優等生でありながらおおらかで心あたまるプレイで多くのジャズ・ファンの心を掴んだサックス・プレイヤー、ウォーン・マーシュの絶頂期のアルバム。スタンダード・ソングのテーマ・メロディを大切にした彼の代表作。

01. ユー・アーチー・トーカー・ピューティフル
02. ニューヨークの恋
03. ブレイ・テル・レイ
04. アド・リビド
05. エヴリシング・ハブンス・トゥ・ミー
06. イッツ・オールライド・ウイズ・ミー

ウォーン・マーシュ (ts) / ロニー・ボール (p)
レッド・ミッチャエル (b) / スタン・リービー (ds)

2006/12/22
Release

Jazz Today



ヴィクター・フェルドマン・オン・ヴァイブス

ヴィクター・フェルドマン

イギリスが生んだモダン・ジャズ・ヴァイブスの第一人者、ヴィクター・フェルドマンがモードに残した貴重なリーダー・アルバム。我国でも人気の高いコンテンポラリー盤と並ぶリラックスした好盤。

MODE
MZCS-1112
¥2,400(税込)

2006/12/22
Release



マーティ・ペイチ・トリオ

マーティ・ペイチ

アート・ペッパーとの共演で知られる名アレンジャー、マーティ・ペイチが、ピアニストとしての力量を世に知らしめた代表作が待望の紙ジャケ化! サポートにウエスト・コーストを代表するブレイヤー、レッド・ミッチャエルとメル・ルイスを従えた人気アルバム。ピアノ・トリオ・ファンやウエストコースト・ジャズ・ファンには堪らない一枚。

01. エイドント・エニソン・ティル・ユー
02. ザ・ファクト・アバウト・マックス
03. ダスク・ライト/04. ザ・ニュー・ソフト・シュー
05. ア・タンディ・ライン/06. エル・ドラド・ブルース
07. ホワッツ・ニュー
08. バイ・ザ・リヴァー・セント・マリー

マーティ・ペイチ(p) / レッド・ミッチャエル(b)
メル・ルイス(ds)

MODE
MZCS-1113
¥2,400(税込)

2007/1/24
Release



バーニー・ニーロウ・トリオ

バーニー・ニーロウ

後年ビーター・ネロと名乗り、イージー・リスニングの世界に身を投じ一世を風靡したバーニー・ニーロウの貴重なジャズ・ピアノ・トリオ・アルバム。幼少の頃からクラシック音楽を学びコンサート・ピアニストを目指していた彼がアート・ティタムとの出会いからジャズに目覚め、そして創り上げたクラシックとジャズが見事に調和した隠れ名盤。

MODE
MZCS-1114
¥2,400(税込)

2007/1/24
Release



ジョアン・グラウアー・トリオ

ジョアン・グラウアー

ホレス・シルバーやハンプトン・ホーズに強く影響された幻の美人ピアニスト、ジョアン・グラウアーの稀少なリーダー・アルバム。その美貌を生かした肖像画によるアート・ワークと女性らしい端正なピアノ・タッチから生み出されたフレッシュなサウンドなどでピアノ・トリオ・ファン必携のアルバム。

01. スクラッチ・マイ・バババ / 02. 木の葉の子守唄
03. 春の如く / 04. アワー・ラヴ・イズ・ヒア・トゥ・スティ
05. レッスン / 06. ゼア・ユール・ネヴァー・ビー・
アナザー・ユー / 07. ラヴ・フォー・セール
08. ホワット・イズ・ディス・シング・コールド・ラヴ
09. ハウ・アバウト・ユー

バーニー・ニーロウ(p) / マックス・ウエイン(b)
ディック・スティーン(ds)

MODE
MZCS-1115
¥2,400(税込)

2007/1/24
Release



SOULS LIKE MINE

ALTON MILLER

オリジナルデトロイトアーティスト随一の正当派ディープハウスオリジネーター、アルトン・ミラーが4年ぶりに待望のニューアルバム“Soul Like Mine”をリリース!

OCTAVE LAB.
OTLCD-1054
¥2,500(税込)

2007/2/10
Release



SELECTED WORKS

ALTON MILLER

最新作“SOULS LIKE MINE”と同時発売される待望のベスト版“SELECTED WORKS”!! 90年代以降デトロイトの数々の名門レーベルから名作シングル作品を数多くリリースしたデトロイトディープハウスシーンを代表するクリエーター/ウォーカリスト、アルトン・ミラーの足跡をコンパイルしたコンピレーション作品!

01. A Minor / “Simple Pleasures” From Muse Recordings: July 2002 / 02. Possibilities Featuring Lady Linn / 03. Souls Like Mine ++ / 04. Don’t Close Your Eyes Featuring Angelique / 05. Choose To Believe Featuring Sky / 06. Knowledge Of The Pigmy / 07. Long Time Comin’ Featuring Nonie / 08. Find A Way ++ / 09. Time Is On Our Side ++ / 10. Malaka / 11. Beautiful Brown People
++ Vocalist By Alton Miller
BONUS TRACKS FOR JAPANESE EDITION
*12. Possibilities (Little Big Bee Remix)
*13. Time Is On Our Side (DJ Nori Remix)

OCTAVE LAB.
OTLCD-1055
¥2,500(税込)

2007/2/10
Release



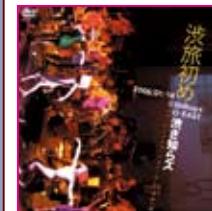
渋響

渋知らズ

渋史上初 DSD Recording "SACD HYBRID 渋さ"登場! 生氣躍動する音、美しいたもの渋さ文学。"世界を股にはさんで"躍進する「渋さ」のJazz、Rock、Popsの決定版! 世界でも稀な驚愕のダイナミック・サウンドで登場!!

avex io
IOCD-20200
¥3,150(税込)

2007/1/10
Release



渋旅初め

渋知らズ

06年、単独公演でこれまで最も動員数を記録した「渋旅初め」Shibuya O-EAST LIVE を8台にも及ぶカメラで捉え、渋さの生き生きと動く様をリアルに且つダイナミックに描いた総合舞台芸術の決定版!

01. New Gate / 02. 股旅
03. 火男 / 04. 大娘のテーマ
05. ひこーき / 06. 泥家族のうた
07. Naadam / 08. 本多工務店のテーマ
09. 仙頭 / 10. すてきち

[VIDEO CLIP]
渋の男

avex io
IOBD-21035
¥4,980(税込)

2007/2/14
Release



Alloy

Salle Gaveau

鬼才鬼怒無月がアストルピアソラの音楽へのオマージュを表明しつつ、その意思を受け継ぎ現代に蘇らせるべく生まれた Salle Gaveau、衝撃のファーストアルバム。

01. Alloy / 02. Parade / 03. Null set
04. Seven Steps to “Post Tango”
05. Tempered Elani / 06. Pointed Red
07. Calcutta / 08. Arcos / 09. Crate

まほろしの世界
MABO-023
¥2,625(税込)
2007/2/18
Release

ビーンズ・レコード
BNSCD-731
¥2,940(税込)

鬼怒無月(g)
喜多直毅(vn)
佐藤芳明(acc)
鳥越啓介(contrabass)
林正樹(pf)

2007/1/14
Release



オホス・ネグロス - 黒い瞳 -

シルビア・イリオンド

ネオ・フォルクローレ・ヴォーカリスト、シルビア・イリオンドが織り広げる静寂で美しい世界が心地よく響きわたる神品。

01. ささやかな火の粉
02. ジャ・メ・ボイ・ジエンド
03. 懐かしいサンティアゴ・デル・エステロ
04. 紫の花 / 05. グアンバーダ / 06. ナクナ
07. 島の女 / 08. 私は孤児 / 09. アル・ランジョ・ボルビ
10. 大瓶 / 11. コブラス・シン・ルル
12. 私の小さな村 / 13. つむじ風 / 14. トロ・ジャユカ
15. 川の囁き、褐色の砂 / 16. セレナータ・デル 900
17. 川の小屋 / 18. いざれ私も遙か
19. ジャ・メ・ボイ
シルビア・イリオンド

ホテル・アルバニア

オバ・クバ

オバ・クバは1999年、南イタリアの、個性的で、独特的なパロック芸術で埋め尽くされた街、レッチャで結成されました。そのイタリアン・バルカンが生み出すサウンドはジブジー・プラスと同様に、ズンチャズンチャとした高速フレーズが随所に飛び出し、またジャジー! 中でも美しく力強いエネルギーを感じさせる女性ヴォーカル、Irene Lungoの声は圧巻であり、耳に心地よく響き渡ります。

01. Ligonzana / 02. Kararia / 03. Allegria Di Naufragi
04. Byala Stala / 05. Sotu Sotu / 06. Stelle Salenti
07. Litalea / 08. Liyepa Hayeria
09. Las Mille E Una Noche / 10. Parada
11. Chiari Di Luna / 12. Ekland 9 / 13. Muye Enye
14. Balkan Games / 15. Yake In Albania Hotel

オバ・クバ



ジャンタル・ナイト

タカシタール

ラーガに基づく瑞々しいメロディーが次々とあふれ出す! ピンクシティ・ジャイプールの月夜を満たす東京発インティアン・ナルアート By サラム海上

01. Jantar Night (Prakash) / 02. Kibor
03. Lal Haveli / 04. Alloo 65 / 05. Chandni
06. Jai Singh / 07. 3.5 Marg
08. Raat Ki Rani (Bou Pagla)
09. Malika / 10. Kailasleep
11. Bye Bye Puja / 10. Jantar Night (Rashi)
13. Raat Ki Rani (Salmon cooks U-zhaan edition)

タカシタール

カザナ・レコード
KZND-0001
¥2,415(税込)

2007/1/14
Release



ボディ&ソウルへジャズ&ボッサ・スタンダード

リヒア・ピロ

アルゼンチンの唄姫! 注目のスタンダード・アルバム!

01. Body and Soul / 02. God Bless The Child
03. Waltz For Debby / 04. Don’t Explain
05. Speak Low / 06. Chega de Saudade
07. Anos Dourados / 08. Message In A Bottle
09. Night And Day / 10. Cray Me A River
11. Aumertime / 12. Angel Eyes

リヒア・ピロ

ビーンズ・レコード
BNSCD-732
¥2,940(税込)

2007/1/28
Release



ストップ・オーヴァー

佐々木秀人・関根敏行カルテット+1

若かりし頃のジャズ・ジャイアンツ達を彷彿させる、ガツツに溢れる演奏に胸を打たれずにはいられない。忘却しているジャズ本流のありようというものを思い出させてくれる原点回帰の1枚。

01. CAROLE'S GARDEN
02. SOULTRANE
03. TURQUOISE TWICE
04. LITTLE B'S POEM
05. STOP OVER

佐々木秀人(tp) / 渡辺典保(as) / 関根敏行(p)
成田敏(b) / 黒崎隆(ds)

2007/2/2
Release



ストロード・ロード

関根敏行トリオ

コアなマニアにより発掘され噂となつたが、限定200枚プレスという入手困難なLPのためビアノトリオファンの間で最もCD化が望まれていた作品。老舗ライヴハウス“サムタイム”(吉祥寺)の初代ハウス・ピアニスト、関根敏行がダイナミックに弾きまくる、1978年3月3日の奇跡。

01. STRODE ROAD
02. UP JUMP TO SPRING
03. LOVE FOR SALE
04. WILL YOU STILL BE MINE
05. DETOUR AHEAD
06. I COULD WRITE A BOOK
07. DEXTERITY

関根敏行(p) / 成田敏(b) / 黒崎隆(ds)



Band collected with groove magnetism

playa

グループ磁気によって集められたバンド... LIVE の雰囲気を元に初の完全バンドレコードイングに臨んだベスト・アルバム! IMIX TAPE 「ROUTINE JAZZ」や MIX CD 「PREMIUM CUTS」収録のヒット・ナンバー「NEW MORNING」や「LIKE IT」の再演も収録。

01. Mondo Radio / 02. Mondo Trash
03. Welcome Happiness / 04. Rainbow Storm
05. Beautiful Boy / 06. New Morning / 07. New Dayz
08. Problem77 ~ Alwayz ~ Still / 09. What Will Be True?
10. Sweet & Spicy / 11. I Like It / 12. Pretty Girl
13. Mondo Radio

KATOKUNNLEE (G.etc) / Yuichi Hokazono (Ds)
Naga Norimasa (B) / Sugames Japon (Key)
Yoichi Izawa (Steel Pan) / Mie (Vo) / yuiave (Vo)

INFORMATION

春日クリスティ宏美

～JAPAN TOUR 2007～

【日時】2月22日(木)
【場所】関内APPLE TEL:045-641-3396
【出演】デュオ:春日クリスティ宏美(Pf)、高嶋 宏(Gt)
<http://blog.goo.ne.jp/pianobarapple>

【日時】2月23日(金)
【場所】代官山Candy TEL:03-5428-3311
【出演】カルテット:春日クリスティ宏美(Pf)、安田 幸司(Bs)、藤井 学(Ds)、他未定
<http://music-candy.com/>

【日時】2月24日(土)
【場所】有楽町季立 TEL:03-3575-0315
【出演】トリオ:春日クリスティ宏美(Pf)、安田 幸司(Bs)、ジーン重村(Ds)
http://homepage2.nifty.com/jazzbar_kiri/

【日時】2月26日(月)
【場所】関内BarBarBar TEL:045-662-0493
【出演】カルテット:春日クリスティ宏美(Pf)、岡 淳(Sax)、早川 哲也(Bs)、藤井 学(Ds)
<http://www.barbarbar.jp/>

【日時】2月27日(火)
【場所】吉祥寺Strings TEL:0422-28-5035
【出演】トリオ:春日クリスティ宏美(Pf)、早川 哲也(Bs)、藤井 学(Ds)
<http://www.jazz-strings.com/>

【日時】2月28日(水)
【場所】阿佐ヶ谷クラブヴィア TEL:03-3393-0418
【出演】デュオ:春日クリスティ宏美(Pf)、増根哲也(Bs)
<http://www.bekkoame.ne.jp/~h.yamakawa/>

【日時】3月1日(木)
【場所】鎌倉ダフネ TEL:0467-24-5169
【出演】トリオ:春日クリスティ宏美(Pf)、加藤 真一(Bs)、藤井 学(Ds)
<http://daphne.cool.ne.jp/>

【日時】3月2日(金)
【場所】目黒Jay-J's Cafe TEL:03-3491-3420
【出演】トリオ:春日クリスティ宏美(Pf)、加藤 真一(Bs)、藤井 学(Ds)
<http://www.jay-js.jp/>

【日時】3月3日(土)
【場所】立川ジェシー・ジェイムス TEL:042-525-7188
【出演】トリオ:春日クリスティ宏美(Pf)、早川 哲也(Bs)、橋本 学(Ds)
<http://homepage2.nifty.com/jessejames-tachikawa/>

【日時】3月4日(日)
【場所】西新井カフェ・クレール TEL:03-3880-6645
【出演】トリオ:春日クリスティ宏美(Pf)、上村 信(Bs)、藤井 学(Ds)
<http://www.adachi.ne.jp/users/clair/>

【日時】3月5日(月)
【場所】吉祥寺SOMETIME TEL:0422-21-6336
【出演】トリオ:春日クリスティ宏美(Pf)、上村 信(Bs)、藤井 学(Ds)
<http://www.sometime.co.jp/sometime/>

【日時】3月6日(火)
【場所】横浜ジャズスポット・ドルフィー TEL:045-261-4542
【出演】トリオ:春日クリスティ宏美(Pf)、佐々木 健二(Bs)、藤井 学(Ds)
<http://www.dolphy-jazzspot.com/>

お寺で倍音浴！

アルケミー・クリスタルボウルの第一人者、牧野持侑(じゅん)の奏でる美しい響きの体験！
【日時】2月24日(土)開場13:30/開演14:00/終演16:00予定
【場所】池上・實相寺
<http://www.ikegamijissouji.jp/index.htm>
【料金】¥4,200
【問い合わせ】ピンポイント TEL:03-3755-0073
<http://www.pinpoint.ne.jp/event/>

早坂紗知

【日時】1月27日(土)
【場所】池袋西口バレルハウス TEL:03-3986-2871
【出演】早坂紗知、カルメン・マキ(vo)、永田利樹(b)
【日時】2月3日(土)
【場所】埼玉県上尾市DON
【出演】Minga/早坂紗知、永田利樹(b)、新澤健一郎(p)、コスマス・カピツツア(per)

【日時】2月4日(日) 晚の部(14:00~17:00)
【場所】吉祥寺サムタイム TEL:0422-21-6336
【出演】早坂紗知、新澤健一郎(key)、永田利樹(b)

【日時】2月7日(水)
【場所】野毛Dolphy TEL:045-261-4542
【出演】minga/早坂紗知、新澤健一郎(key)、永田利樹(b)、コスマス・カピツツア(per)

【日時】2月11日(日)
【場所】吉祥寺ChaCha House TEL:0422-20-6730
【出演】Minga Senegal/早坂紗知、永田利樹(b)、新澤健一郎(key)、コスマス・カピツツア(per)、ワガン・ンジャエ・ローズ(per)、アブドウ・バイナル(dance,vo,djembe)

【日時】2月24日(土)
【場所】六本木アルティー TEL:03-3479-2037
【出演】minga/早坂紗知、新澤健一郎(key)、小畠和彦(g)、永田利樹(b)、コスマス・カピツツア(per)

【バースデイコンサートvol.21】
【日時】2月26日(月)
【場所】江古田バディ TEL:03-3953-1152
【料金】前売:¥3800 当日:¥4200(1drink付)
スタークラブ会員予約:¥3500
【出演】早坂紗知、山下洋輔(p)、つの犬(dr)、永田利樹(b)、コスマス・カピツツア(per)、大儀見元(per)
ゲスト:カルメン・マキ(vo)

ジェシ・ヴァン・ルーラー

ジェシ・ヴァン・ルーラー2年ぶりの来日決定！

【日時】2月9日(金)
【場所】モーション・ブルー・ヨコハマ TEL:045-226-1919
【日時】2月10日(土)・2月11日(日)
【場所】東京丸の内 コットン・クラブ TEL:03-3215-1515
【日時】2月12日(月)
【場所】大阪 ジャズオントップ TEL:06-6341-0147
来日メンバー:
ジェシ・ヴァン・ルーラー(g)
ペレツ・ヴァン・デン・ブリンク(p)



シャルル・アズナブル

～“ラ・ボエムール最終章” ありがとう、さよなら日本公演

■大阪公演■

【日時】2月3日(土) open 18:00 / start 19:00
2月4日(日) open 15:00 / start 16:00
【場所】大阪フェスティバルホール
【料金】S:¥18,000 A:¥13,000 プレミア:¥23,000(全席指定/税込)
【問い合わせ】キヨードーチケットセンター TEL:06-6233-8888

■福岡公演■

【日時】2月7日(水) open 18:00 / start 19:00
【場所】福岡シンフォニーホール
【料金】S:¥17,000 A:¥13,000 プレミア:¥20,000(全席指定/税込)
【問い合わせ】キヨードー西日本 TEL:092-714-0159

■東京公演■

【日時】2月9日(金) open 18:00 / start 19:00
2月10日(土) open 15:00 / start 16:00
2月11日(日) open 15:00 / start 16:00
【場所】東京国際フォーラム ホールA
【料金】S:¥20,000 A:¥15,000 プレミア:¥25,000(全席指定/税込)
【問い合わせ】チケットスペース TEL:03-3234-9999

■愛知公演■

【日時】2月13日(火) open 18:00 / start 19:00
【場所】愛知県芸術劇場 大ホール
【料金】S:¥17,000 A:¥13,000 プレミア:¥20,000(全席指定/税込)
【問い合わせ】サンデーフォークプロモーション TEL:052-320-9100

*プレミア席は、アズナブルのサインを刺繡したシルク製ハンカチ付となります。
*未就学児童は入場できません

喜多直毅

【日時】1月22日(月)
【場所】吉祥寺MANDA-LA2 TEL:0422-42-1579
【出演】Salle Gaveau:
喜多直毅(vln)、鬼怒無月(gt)、佐藤芳明(acc)、林正樹(pf)、
鳥越啓介(bass)
<http://www.mandala.gr.jp/>

【日時】1月27日(土)
【場所】荻窪ビストロサンジャック TEL:03-3393-2639
【出演】Alan Bundoki:今井龍一(oud) 喜多直毅(vln)
Orso Bruno:テディ熊谷(flute) 檜山学(acc)
<http://pomkn.cocolog-nifty.com/kikaku/>

【日時】1月30日(火)
【場所】大泉学園inF TEL:03-3393-2639
【出演】喜多直毅(vln)、吉見征樹(tabla)
<http://homepage2.nifty.com/in-f/>

【日時】1月31日(水)
【場所】日暮里Bar Porto TEL:03-3891-6444
【出演】喜多直毅(vln)、柴田奈緒(vo,gt)
<http://www.geocities.jp/barporto/>

【日時】3月13日(火)
【場所】吉祥寺STAR PINE'S CAFE TEL:0422-23-2251
【出演】喜多直毅(vln)、佐藤芳明(acc)、鬼怒無月(gt)
黒田京子(pf)、吉野弘志(bs)、芳垣安洋(dr)
さがゆき(vo)
<http://www.mandala.gr.jp/spc.html>

六本木 Super Deluxe LIVE INFO TEL : 03-5412-0515

Chris Mosdell and the Incendiary Orchestra

【日時】1月23日(火) Open 19:00 / Start 20:00

【料金】¥1,000

【出演】Chris Mosdell(poetry), Michiyo Yagi(koto), Edgar Kautzner(violin), Andy Matsukami(Table), Rie Terada(Japanese rendition)

live FAR 9

【日時】1月27日(土) Open 19:30 / Start 20:30

【料金】前売:¥2,300(ドリンク別) 当日:¥2,800(ドリンク別)

【出演】1st.セット:

藤乃家舞(Yamp Kolt,etc.)、カイロジ(voice)、
藤掛正隆(dr.) & Yamp Kolt spring)、
U-1(Yamp Kolt spring)、よっしー(Yamp Kolt spring)、
タブラ・ダーアラノイザズ(ハープ・豊琴)、永戸鉄也(ライブ・コラージュ)
2nd.セット:
ビース・ビル(浅野忠信/岩井田道現/藤乃家舞/茶谷雅之/市村隼人)、岸本智也(VJ)
DJ:ビヤ・マイク

commune disc presents Sound Room

【日時】1月29日(月) Open 19:00 / Start 20:00

【料金】¥2,000(21:30以降は¥1,000)

【出演】Phroq(electronics)+hofi(guitar)DUO、(<http://d.hatena.ne.jp/hofii/>)
Tokyo Kinba-ku: (有末剛/卯月妙子/沢田穣治/稻葉明徳)
DJ:クナッケ、Kojime、Paris-Pekin Records(虹釜太郎)、Yasufumi Suzuki

スピルキヤ2 ～大地の鼓動を SOIL POWER !!! ~

【日時】2月10日(土) Open 17:30 / Start 18:00

【料金】前売:¥2,500 当日:¥3,000(ドリンク別)

【出演】大ピカと田山脈 Big Mountain PIKA WADA(ピカチュウ vs 和田晋侍)、
増子真二+watch Man(ds: ex. Melt Banana)、
煙巻ヨーコ with 邪魔輔(ds) & 石原富士夫(sax)、オニ

<http://blog.goo.ne.jp/spilkya-usagi>

LIVE INFOMATION

【日時】1月25日(木) open 18:00 / start 19:30

【場所】名古屋K.D.Japon TEL:052-251-0324

【料金】¥2,000+order

【出演】sedge:

白井康浩(g)、鈴木茂流(永久持続音)、小野良子(as)、
照喜名俊典(eu, tb) + かみむら泰一(sax)、鳥山タケ(ds)
Unorthodox Jazz Quartet:
鈴木茂流(永久持続音)、水野啓(g)、照喜名俊典(eu, tb) + かみむら泰一(sax) 鳥山タケ(ds)

<http://www2.odn.ne.jp/kdjapon/>

【日時】1月30日(火) open 18:00 / start 19:00

【場所】名古屋Tokuzo TEL:052-733-3709

【料金】前売:¥2,500 当日:¥2,800

【出演】ONNYK(sax)、中谷達也(per)、河崎純(b) Trio
白井康浩(g) 近藤久峰(ds) Duo
Kei(g) 平尾義之(sax) Duo
<http://www.tokuzo.com>

【日時】1月31日(水) open 18:00 / start 19:30

【場所】名古屋なんや TEL:052-762-9289

【料金】¥2,000+order

【出演】佐藤行衛(g) from 韓国、白井康浩(g)、
鈴木茂流(永久持続音) 長坂均(tp)、小野良子(as)
<http://www.nanyagokiso.com/>

【日時】2月3日(土) start 20:00

【場所】高円寺GOODMAN

【料金】¥1,200+drink

【出演】白井康浩(g) 鈴木茂流(永久持続音)
<http://apaches.hip.infoseek.co.jp/goodman/>

【日時】2月16日(金) open 18:00 / start 19:30

【場所】名古屋なんや TEL:052-762-9289

【料金】¥2,000+order

【出演】高岡大祐(tuba)、照喜名俊典(tb,eu)、白井康浩(g)
石渡岬(tp)
<http://www.nanyagokiso.com/>

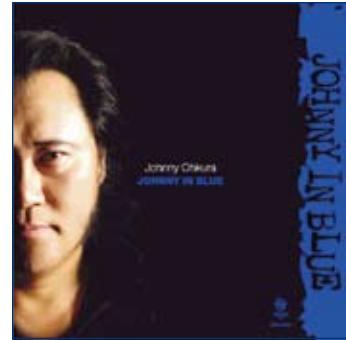
Rock Today って… アンタ、誰!?

text by 末次安里

1月8日放送のテレビ東京『ロックフジヤマ』を観ながら、今年も（嗚呼、“ジャズ界のマーティ・フリードマン”は登場しないもんだろうか…）（一回のお試しでもいいから『ジャズフジヤマ』を誰か企画してくれないものだろうか…）と切に想った。近田春夫のポストは菊地成孔が埋めてくれそうだが（と書いて

JOHNNY IN BLUE ジョニーハウス

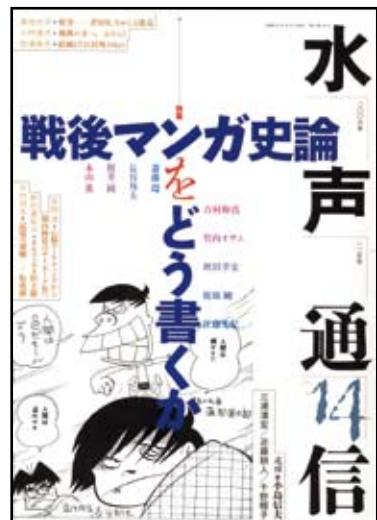
待望の30周年記念アルバム第二弾!!
ライブ映像「二人だけ」・「HEY MAMA
ROCK & ROLL」DVD特典付き!!



01. BABY BLUE / 02. Please Talk To Me
03. Do You / 04. Sexy Paradise
05. 君にむなさわぎ / 06. 恋の苦手な Teddy Boy
07. Wonderful You / 08. 愛が淋しい
09. ロンサム ジョニー ボーイ
10. Good-bye Last Song
11. You Knock Me Down / 12. 想い出のアニー

Guest Artist : SAX/ CLARENCE CLEMONS

Webkoo
IWKCL-3030 ¥3,000(税込)
2007/1/24 RELEASE



も本人は気を悪くしないだろう、「朋ちゃんの〈I'm proud〉なんか立派にロックじゃん！」と実演で立証してくれるマーティ的なキャラがジャズ界には不在だし、斬新な切り口どころかジャズ番組の企画そのものがラテ界の水面下で密かに進行されているなんていう噂もトンと聞かない。Woo、ロックフジヤマ!!

新春明けのワイドショーをボケッと観ていたら、恒例のハワイ入りした内田裕也が「矢沢には負けないぜ!!」と常套句で吠えていた。1月7日放送のフジテレビ『NEW YEAR ROCK FESTIVAL #34』もなんやかんや言いながら結局、今年もながら鑑賞したので御屠蘇期間の気分はさながらRockToday（なんちゃって）編集長である（笑）。が、RockTodayも創れないか、というヨコシマな考えは満ざら胸中にはないでもなく、昨年ヨコハマの名門ライヴハウス『Friday』でリボルバーのBEATLES NIGHTを御機嫌初体験した夜は結構マジでその可能性を脳裡で弾いてみたりした。しかもこれを書きながら現在、背後から流れているのはジョニーハウスの新譜『JOHNNY IN BLUE』のサンプル音源なんだからアンタ、誰!? じつは初出社した昨日、某喫茶店である方々と談笑していた際に「いや、あのさあ、RockTodayちゅ～のがあっても面白いと思うんだよねえ（笑）」とか軽口をカマしたら、暫し中空を眺めていた一人の先輩から「としたら、もしね、JazzTodayがその要素を取り込むとして良いネーミングは何かあるの?」と結構マジで訊かれたから多少

慌てて、その場は「う～ん…その名案が浮かばないんだよなあ」と（笑）付きで誤魔化した次第。

でも彼らと別れ、越年の清算も済ませて提出後、最寄り駅の書店で『戦後マンガ史論をどう書くか』の特集を組んでいる『声通信』14号を購入し、メトロに揺られながら（本来の購入目的である）追悼●小島信夫の各文章を読んでいても心のどこかに先ほどの先輩の言葉が引っかかっていたのか、JazzとRockを合体させた（「ジャズロック」ではない）巧い呼称を脳髄の路地裏でちらほらと探っているじぶんがいたりして。まあ、それはそれ、本気で熟考しているわけでも、誰かから企画書の提出を待たれている案件でもないから、小島追悼企画のあとは巻頭の新連載に戻り、『彼自身によるロラン・バルト』よりの引用であると説明される「書き出しを見つけたり、それを書いたりするのが好きな彼は、この快

樂を増やそうと試みる。彼が断章を書くのはそのためなのだ。』という断章に頷きながら、乗換駅の通路にあるCASAに誘われて麦酒と枝豆を頬んだのだが、「Jazz + RockでJack、JackTodayかあ!?」という何とも情けないオチが浮上してきたのは豆が尽きた時だった。我ながら木に登りたい気分である。

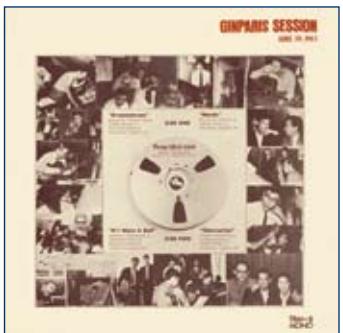
というオバカな夜が明けての翌日がまさに本日なのだが、じつは大晦日～三が日を費やしての毎春恒例書斎整理の際に不覚にもぎっくり腰をやってしまい、にも係わらずいったん入稿作業や執筆を始めてしまうと一時間に一回の休憩もついぞ忘れて没頭し、これ以上腰に悪い仕打ちはない同一姿勢で打ち続けてしまうものだから、今も痛いのなんのって箱根駅伝をひた走る苦戦走者の表情にわが身を重ねたりしつつも後半を書き切ろう…。

そんな腰痛編集者がこの越年期間、文字どおり肌身離さず用を足すにも湯船に浸かる際もメトロの対面に好みの異性が座ろうが一切わき目もふらず（一瞥に留め）、開いては閉じては開いて耽読し、カノジョの著作以外は何も読まなかったという作家が目下、じぶんの「読む恋人」である川上弘美の小説で

ありエッセイ集なんである。じつは昨年の後半から突如、近年はトンと御無沙汰気味の現代小説に踏み込んでこれまで未読の作家群をとりあえず一冊ずつ読もうかと文庫を買いましたが、前号でも触れた堀江敏幸→星野智幸以降、保坂和志の『この人の闇（いき）』を読破して（いやあ、評判の作家ばかりとあって皆さん、巧いなあ…）とひたすら関心。ここで女性作家を挿もうと川上弘美の芥川賞受賞作『蛇を踏む』に臨んだらもう、出だしの「ミドリ公園に行く途中の藪で、蛇を踏んでしまった。」からするすると引き摺り込まれて、これまた度々引用される個所である「蛇は柔らかく、踏んでも踏んでもきりがない感じだった。」的な弘美世界の仕掛けにすぐわれ、保坂和志→川上弘美→川上弘美→川上弘美→川上…が今日の今日まで連なつて、どうやら現行の全著作を読破するまでは抜け道は見い出せそうにない勢い。本当は時たま、これまた年末に購入した高柳昌行著『汎音楽論集』につかのまの浮気を試みたりしているのだが、読破は次の入稿時まではかかりうなので今回は表紙を載せない。そんなJazz離れた正月を過ごしているじぶんの身内

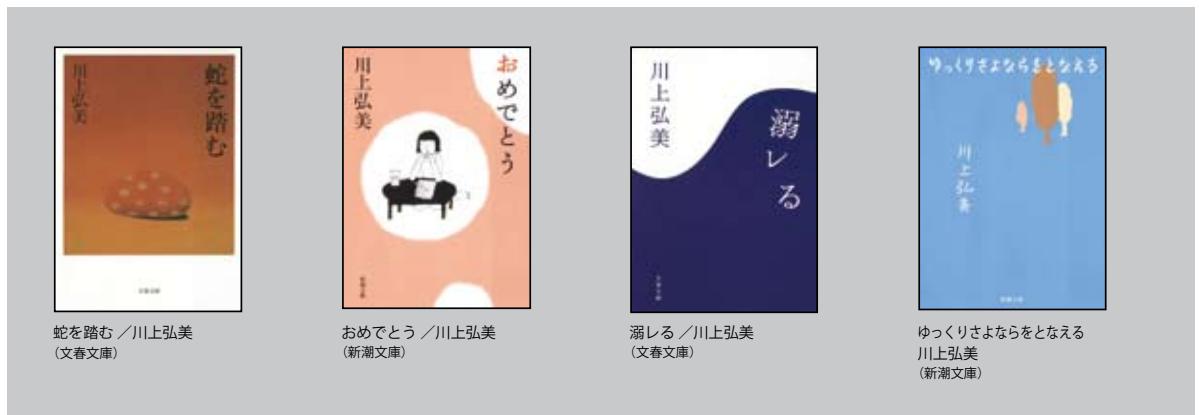
にはどこか後ろめたさ（?）もあったのか、川上読みの背後では高柳関連のCDが何枚も響いていたのだが…いざ還ろうか、音楽の森へ。

銀巴里セッション 高柳 昌行と新世纪音楽研究所



01. グリーンスリーブス
02. ナルディス
03. イフ・アイ・ワー・ア・ベル
04. オブストラクション

three blind mice
MHC-10023 ¥2,415(税込)
2006/11/22 RELEASE

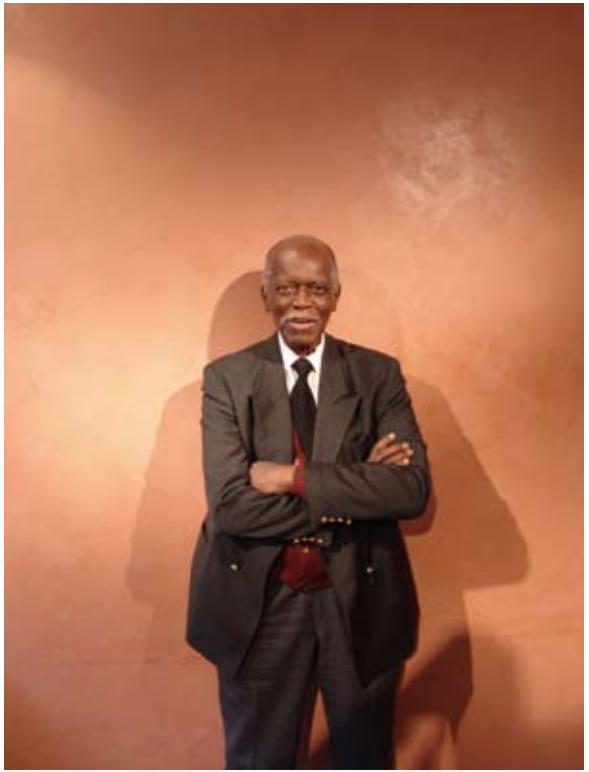


Jazz Today®

発行人：鶴沼利成 jazz today 34号
編集人：末次安里 表紙画：タジマヤスタカ
デザイン：Factory Jam (岡本義憲&三村洋一)

制作：jazz todayプロジェクト
〒107-0062 東京都港区南青山3-4-7-402
専用電話：03-3746-8760 e-mail: sue@image.ocn.ne.jp

ブログ版 編集長日誌 公開中! <http://blog.goo.ne.jp/jazztoday/>



HANK JONES

JazzToday Special INTERVIEW

ハンク・ジョーンズに会ったんだ!

連載第7回

ジョーンズ三兄弟

聞き手: JT (本誌編集長)

JT: 兄弟それぞれが選んだ楽器に、各人の性格が反映されているとは思いませんか?

HJ: ハハハ、なるほどね。楽器がそれぞれの個性を表わしているのでは、という言い方はもの凄く面白いと思うよ(笑)。ただ、実際に僕がピアノに進んだのは母の影響が凄く大きかったんだ。ピアノを選んでくれたのも母だし、「一生懸命練習するんだよ」と熱心に教えてくれたのも母だったからね。それこそ母はヨーロッパに留学させたいというくらいの想いを抱いてたと思うしね。でも、当時の情勢としてはなかなか渡航も難しく、費用も莫大という現実の前に儘ならなかったというわけさ。

JT: でも、御自身もピアノとの相性の良さを感じられたわけですよね。

HJ: 母の後押しがあって、私が自らピアノを選んだというよりも正直、ピアノが私を見つけてくれたという感じがあるんだな。で、サドに関しては父方の一番若い叔父がイル・ジョーンズというトランペッタ・プレイヤーだったので、彼に影響されたトコもあると思うね。実際にサドが一番最初に使ったトランペッタは、その叔父がプレゼントしてくれたものなんだよ。

JT: ああ、そうなんですか。残るはドラムとエルヴィンの出遭いですが…。HJ: エルヴィンに関してはもう小さい頃からパディ・リッチとジョー・ジョーンズがとっても好きでね。ずっと聴いてたし、僕がJATPの仕事でクリープランドとかに行くと、当時空軍に入っていたエルヴィンがそのコンサートには必ず来ていたね。上手く時間を見つけてはパディ・リッチに話しかけたりして(笑)。だから僕が彼に与えた影響と言ってもその程度の、ちょっとした交流の手伝いくらいでほとんど影響はないと思うんだ。弟たちは皆、それぞれの進む道を見つけていったからね。

JT: 似たような質問ですが、それぞれの創り出した音楽には性格的違いを感じられますか?

HJ: その後、それぞれがやっていた音楽という面での質問に関しては正直、ちょっと分からないな。ただ、本当に子供の頃の体験というか、家の中では常時音楽が流れているし、自動ピアノがあつて僕はそれに魅了されちゃって(笑)。人がいないのに鍵盤が動いて音を出すというのは凄い、と。それでピアノに引き込まれたというのもあるんだね。で、弟たちも多かれ少なかれ同じように想っていたとは今にして思うな。

JT: 原点は一緒だった。と。

HJ: そうだね。本当に家の中には何枚とLPがあって、それこそブルースからビッグバンドまでいろいろあったんで。小さい、自分たちの住んでいる世界だけではなくて、世の中にはもっともっと広く、こういう他の世界もあるんだということをなんとなく気づいていた。それで自分たちの本当の嗜好に合うものをピックアップしていったという、そういう子供の頃の体験が全員に影響しているように思いますね。

JT: では、一人の兄から観たサドとエルヴィンの、性格の違いはどうですか?

HJ: それも正直に言うとね、兄の立場から「弟は…」云々と語ろうとすると同時にというか、むしろ二人とも小さい当時から「素晴らしい才能を秘めているミュージシャンである」という部分が凄く意識されたし…本当に彼らは素晴らしい才能を持っているな、というのを子供の頃から気づかせてくれたからね。

JT: 才能の最初の発見者、その一人でもあるわけですね。

HJ: サドに関しては皆さん、なかなか気づかれてはいないようで…本当に力のある素晴らしいトランペッターね。自分のバンドでは他の人にソロを取らせるからあまり脚光を浴びなかつたんだけど、本当にトランペッターとしても超一流だった。アレンジャーとしての才能は皆さんのが御承知のとおりですが、じつは彼はニューヨークに出る前はコメディアンとかダンサーのための音楽のアレンジもやっていたコトがあってね。そうやってニューヨークに出てくる前からめきめき頭角を現わしてきたんですよ。

JT: 現在、ジョーンズ家のなかで後継者が出てきそうな流れはありますか?

HJ: やはり、残念ながら(笑)。実際に家族は何人もいるし、それこそ皆が音楽の道へ進んでもいいくらいの才能を持っているのに、最終的には誰も「音楽の道」を職業としては選んでいないんだよね。

JT: ああ、そうですか。

HJ: たとえば僕らは「ジョーンズ三兄弟」なんて言われ方をしてきたけれども、もう一人のボールという弟もピアノが凄く上手かった。なのに彼はピアニストになる道は選ばずに他の職業に就いたしね。彼の息子のボールJr.もピアノの才能が凄くあるのに、最終的には高校で教師をしてたりとか。他にもベースをやってたり、アルトをやっている甥っ子がいたりするんだけれども皆、最終的にはべつの道を選んでいるというのが現実だね。だから今、音楽を職業にしているのはこの僕だけなんだよ(笑)。確かに「大変」といえば、大変な仕事ではあるし。次から次へと仕事で家を空けて、ちょっとした「ホームレス状態」じゃないけれども(笑)、うちにいないからね。そういう面が強いし、身近で見ていると大変そうだなというふうに思ったのかも知れないな。



Hank Jones | For My Father (JUST 209-2)
Recorded in New York City, 2004

【前号のお詫びと訂正】 33号の当連載中、「ロバータ・ガンバリーニ」さんの表記が「ロバート」と誤植されていました。関係各位にお詫びする同時にここで一文字訂正させていただきます。

(本誌編集部)